本文

官報

第八千六百六號

明治四十五年二月二十九日　木曜日

印刷局

○條約

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ明治四十四年八月十九日佛蘭西國巴里ニ於テ日佛兩國全權委員ノ署名調印シタル日佛通商航海條約ヲ批准シ玆ニ之ヲ公布セシム

御名御璽

明治四十五年二月二十八日

内閣總理大臣　侯爵西園寺公望

外務大臣　子爵内田康哉

條約第十三號

日佛通商航海條約

日本國皇帝陛下及佛蘭西共和國大統領ハ幸ニ其ノ間及兩國間ニ存在スル友好親善ノ關係ヲ鞏固ナラシメムコトヲ欲シ而シテ今後兩國間ノ通商關係ヲ律スヘキ條規ヲ明確ニ訂立スルハ此ノ善美ナル目的ヲ達スルニ資スヘキヲ信シ之カ爲ニ通商航海條約ヲ締結スルコトニ決定シ日本國皇帝陛下ハ佛蘭西國駐箚特命全權大使正三位勳一等男爵栗野慎一郎ヲ佛蘭西共和國大統領ハ外務大臣元老院議員ジー、ド、セルゾ大藏大臣代議院議員エル、エル、クロッツ及商工務大臣元老院議員シャルル、クイバヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ之カ良好妥當ナルヲ認メタル後左ノ諸條ヲ協定セリ

第一條

兩締約國ノ一方ノ國民ハ他ノ一方ノ版圖内ノ各地ニ到リ又ハ滯在スルコトニ付家族ト共ニ完全ナル自由ヲ有シ其ノ國法ニ遵由スルニ於テハ左記ノ權利ヲ享有スヘシ

一　旅行及住居ニ關スル事項ニ付總テ内國民ト同樣ニ待遇セラルヘク

二　商業又ハ製造業ニ從事シ又自ラ行フト代理人ニ由ルトヲ問ハス且單獨ニテ行フト外國人或ハ内國民トノ組合ヲ以テスルトニ論ナク適法ナル商業ノ目的物タル各種商品ヲ取扱フコトニ付内國民ト同等ノ權利ヲ享有スヘク

三　産業、生業又ハ職業ニ從フコト及修學又ハ學術上ノ研究ヲ行フコトニ關スル事項ニ付總テ最惠國ノ國民ト同樣ニ待遇セラルヘク

四　必要ナル家屋、製造所、倉庫、店舗及附屬構造物ヲ所有シ又ハ賃借シテ之ヲ使用シ又住居、商業、生産業、製造業其ノ他適法ナル目的ノ爲土地ヲ賃借スルコトヲ得ヘク

五　國法ニ依リ別國ノ國民カ取得占有スルコトヲ得又ハ得ルコトアルヘキ各種ノ動産又ハ不動産ヲ相互ノ條件ニ依リ取得占有スルノ自由ヲ享有シ内國民ニ對シテ制定セラレ又ハ制定セラルルコトアルヘキ所ト同一ノ條件ニ依リ賣買、交換、贈與、婚姻、遺言其ノ他一切ノ方法ニ因リ右動産又ハ不動産ヲ處分スルコトヲ得ヘク又其ノ財産ノ賣得金及總テ其ノ所屬品ヲ輸出スルノ自由ヲ享有シ外國人タルノ故ヲ以テ之カ爲同一ノ場合ニ内國民ノ負擔スル所ト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ナル稅金ヲ課セラルルコトナカルヘク

六　身體及財産ニ對シテ常ニ完全ナル保護及保障ヲ享受シ其ノ權利ヲ行使擁護セムカ爲自由且容易ニ裁判所ニ申出ツルコトヲ得且内國民ト均シク右裁判所ニ於テ自己ヲ代理セシメムカ爲辯護士代言人其ノ他ノ法律事務取扱人ヲ選擇使用スルノ自由ヲ享有シ其ノ他司法ニ關スル一切ノ事項ニ付内國民ト同一ノ權利及特權ヲ享有スヘク

七　陸軍、海軍、護國軍又ハ民兵ノ何レタルヲ問ハス總テノ强制兵役ヲ免レ且服役ノ代トシテ課セラルル一切ノ貢納ヲ免レ又强募公債及軍用徵發又ハ取立金ニ付テハ不動産ノ所有者、賃借者又ハ使用者トシテ内國民ト均シク課セラルルモノヲ除クノ外亦一切之ヲ免ルヘク前記ノ事項ニ關シ締約國ノ一方ノ國民ハ他ノ一方ノ版圖内ニ於テ最惠國ノ國民ニ與ヘラレ又ハ與ヘラルルコトアルヘキ所ニ比シ不利益ナル待遇ヲ與ヘラルルコトナカルヘク

八　内國民又ハ最惠國ノ國民ノ納付シ又ハ納付スルコトアルヘキ所ト異ナ

8606号　本文

ルカ或ハ之ヨリ多額ナル何等ノ課金、租稅、手數料又ハ貢納ヲ徵收セラルルコトナカルヘシ

第二條

兩締約國ノ一方ノ國民カ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ有スル家宅、倉庫、製造所及店舖竝一切ノ附屬構造物ニシテ適法ノ目的ニ使用セラルルモノハ侵ヘカラス右建物又ハ附屬構造物ニ付テハ內國民ニ對スル法定ノ條件及方式ニ依ルノ外臨檢捜索ヲ爲シ又ハ帳簿、書類若ハ計算書ヲ檢査セラルルコトヲ得ス

第三條

兩締約國ノ國民ハ相互ニ通商及航海ノ自由ヲ享有シ最惠國ノ國民ト均シク他ノ一方ノ版圖內ニ於テ外國通商ノ爲ニ開カレ又ハ開カルルコトアルヘキ一切ノ場所、港及河川ニ船舶及貨物ヲ以テ自由ニ到ルコトヲ得而シテ到達國ノ國法ニ遵由スルニ於テハ通商及航海ニ關スル事項ニ付內國民ノ享有シ又ハ享有スルコトアルヘキ所ト同一ノ權利、恩典、自由、特典及免除ヲ享有スヘシ

第四條

兩締約國ノ一方ノ國法ニ從ヒテ既ニ設立セラレ又ハ今後設立セラルヘキ商工業及金融業ニ關スル株式會社其ノ他ノ會社及組合ニシテ該國版圖內ニ住所ヲ有スルモノハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ其ノ國法ニ遵反セサル限リ權利ヲ行使シ且原告又ハ被告トシテ裁判所ニ出頭スルコトヲ得

第五條

日本國及佛蘭西國ノ一方ノ製產品カ他ノ一方ニ輸入セラルルニ當リ徵收スル關稅ハ最惠國ノ製產ニ係ルト同樣ノ物品ニ課スル所ト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ナルコトヲ得ス

日本國及佛蘭西國ノ一方ヨリ他ノ一方ニ輸出セラルル製產品ニ對シ徵收スル稅金モ亦最惠國ニ輸出セラルル同樣ノ製產品ニ課スル所ト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ナルコトヲ得ス

第六條

兩締約國ハ輸入、輸出又ハ通過ノ禁止又ハ制限ニ依リテ相互ノ通商ヲ妨ケサルヘキコトヲ約ス

左記ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ニ對シ例外ヲ設クルコトヲ得但シ別國一般ニ又ハ同一ノ條件ノ下ニ在ル別國ニ對シ適用セラルルモノタルコトヲ要ス

一　非常ノ場合ニ於テ軍需品ニ關スルトキ

二　公安ニ關スルトキ

三　衞生警察ニ關スルトキ又ハ動物若ハ有用植物ヲ病疫若ハ有害ナル昆蟲及寄生物ニ對シテ保護セムトスルトキ

四　商品ノ國內ニ於ケル製產又ハ內國製產商品ノ國內ニ於ケル販賣若ハ運搬ニ關シ國內法ヲ以テ定メタル禁止又ハ制限ヲ同樣ノ外國商品ニ適用セムトスルトキ

五　國家獨占業ノ目的物タル又ハ目的物タルコトアルヘキ商品ニ關スルトキ

第七條

兩締約國ノ一方ノ版圖內ノ製產ニ係ル各種ノ商品ニシテ他ノ一方ノ版圖內ニ輸入セラレタルモノニ對シ國家、市町村又ハ團體ノ利益ノ爲ニ徵收スル製品稅、入市稅又ハ消費稅ヲ課スルニ當リ同樣ノ內國製產品又ハ之ヨリ多額ナルコトヲ得ス

兩締約國ノ一方ノ生產又ハ製造ニ係ル物品ニシテ庫入又ハ通過ノ目的ヲ以テ他ノ一方ノ版圖內ニ輸入セラルルモノハ內國稅ヲ課セラルルコトナカルヘシ

第八條

日本國商品ノ輸入者又ハ佛蘭西國商品ノ輸入者ハ製產原地證明書ヲ提出スルノ義務ヲ相互ニ免除セラルヘシ

尤モ締約國ノ一方ト最惠國條款ニ依ル關係ヲ有セサル第三國ノ場合ニ於テハ例外トシテ製產原地證明書ノ提出ヲ求ムルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ製產原地證明書ハ商品ノ發送地カ領事館所在地ナルトキハ其ノ輸入セラルヘキ當該國ノ正式領事官之ヲ發給シ其ノ他ノ地ナルトキハ稅關又ハ之ニ準スヘキ場合ニ於テハ商業會議所若ハ地方官廳之ヲ發給スヘシ

兩國ノ一方ニ於テ製產原地證明書ヲ發給スルニ當リ料金ヲ徵收スル場合ニ於テハ他ノ一方ニ於テモ亦製產原地證明書ノ發給ニ當リ同額ノ料金ヲ設定スルコトヲ得送狀ニ對スル領事官ノ查證ニ付テモ亦同シ

第九條

兩締約國ノ一方ノ國民又ハ商工業者及該國ノ版圖內ニ於テ住所ヲ有シ其ノ業ヲ營ム商工業者ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ本人自ラ又ハ旅商ヲ使用シテ物品ヲ買入レ見本携帶又ハ不携帶ニテ注文ヲ取集ムルコトヲ得而シテ右商工業者及其ノ使用スル旅商ハ買入ヲ爲シ又ハ注文ヲ取集ムルニ當リ總テ最惠國待遇ヲ享受スヘシ但シ佛蘭西國ニ於テ日本國旅商又ハ日本國ニ於テ佛蘭西國旅商ニ對シ免許料ヲ課スル場合ニ於テハ日本國ニ於テ佛蘭西國旅商又ハ佛蘭西國ニ於テ日本國旅商ニ對シ同額ノ稅金ヲ課スルコトヲ得

前記ノ目的ヲ以テ見本トシテ輸入セラルル物品ハ其ノ再輸出セラルヘキコト又ハ法定期間內ニ再輸出セラレサル場合ニ於ケル關稅ノ納付セラルヘキコト又ハ法定期間內ニ再輸出セラレタル場合ニ於ケル關稅法規及手續ヲ履行スルトキハ各締約國ニ於テ一時無稅輸入ヲ許可セラルヘシ但シ此ノ特權ハ物品ノ數量又ハ價格ニ徵シ見本ト認ムルコト能ハサルモノ又ハ其ノ性質上再輸出ノ際校合スルコト能ハサルモノニハ之ヲ與フルコトナシ見本カ無稅輸入ヲ許可セラルヘキモノタルトキト雖トモ決定スルハ何レノ場合ニ於テモ輸入地當該稅關ノ權內ニ專屬ス

締約國ノ版圖內ニ在ル商業會議所ハ旅商カ主トシテ其ノ身元證明ノ爲要スルコトアルヘキ證明書ノ發給權限ヲ有スルモノトシテ互ニ承認セラルヘシ

第十條

兩締約國ノ一方ノ港ニ其ノ國ノ船舶ヲ以テ適法ニ輸入セラレ又ハ輸入セラルルコトアルヘキ一切ノ物品ハ他ノ一方ノ船舶ヲ以テ亦均シク該港ニ之ヲ輸入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ右物品ノ內國船舶ニ依リテ輸入セラルルトキ課スル所ト異ナルカ或ハ之ヨリ多額ナル稅金又ハ課金ハ如何ナル名稱ヲ有スルモノタリトモ之ヲ課スルコトナシ右相互均等ノ待遇ハ該物品カ直接ニ製產原地ヨリ到ルト又ハ其ノ他ノ外國ヨリ到ルトヲ問ハス之ヲ實行スヘシ

輸出ニ關シテモ右ト同樣ニ全ク均等ノ待遇ヲ爲スヘク從テ締約國ノ一方ノ版圖ヨリ適法ニ輸出セラレ又ハ輸出セラルルコトアルヘキ物品ハ其ノ輸出カ日本船舶ニ依ルト佛蘭西船舶ニ依ルトヲ問ハス且其ノ仕向先カ締約國ノ他ノ一方ノ港タルト第三國ノ港タルトニ拘ラス之カ輸出ニ當リ該版圖內ニ於テ同一ノ輸出稅ヲ納付シ又同一ノ奬勵金又ハ戾稅ヲ受クヘシ

第十一條

締約國ノ領水內ニ於ケル船舶ノ繫留及貨物ノ積卸ニ關スル一切ノ事項ニ付テハ締約國ニ於テ兩國ノ船舶ヲ全ク均等ニ待遇スルノ意思ナルニ因リ締約國ノ孰レノ一方タリトモ他ノ一方ノ船舶ニ對シ同樣ノ場合ニ均シク許與セサル何等ノ特權又ハ便益ヲ自國船舶ニ許與スルコトナカルヘシ

第十二條

日本國又ハ佛蘭西國ノ國旗ヲ掲ケ且各本國法ニ規定スル國籍證明書類ヲ有スル商船ハ佛蘭西國又ハ日本國ニ於テ之ヲ日本船舶又ハ佛蘭西船舶ト認ムヘシ

第十三條

政府官公吏、私人、團體又ハ各種營造物ノ名義ヲ以テ又ハ其ノ利益ノ爲ニ課セラルル噸稅、通過稅、運河稅、港稅、水先案內料、燈臺稅、檢疫費其ノ他名稱ノ如何ヲ拘ラス之ニ類似又ハ該當スル稅金又ハ課金ハ同一ノ條件ヲ以テ均シク內國船舶一般ニ又ハ最惠國船舶ニ課スルモノニ非サレハ締約國ノ一方ノ領水內ニ於テ之ヲ他ノ一方ノ船舶ニ課スルコトナシ右均等ノ待遇ハ兩國ノ船舶カ何レノ地ヨリ來リ又何レノ地ニ往クヲ問ハス相互ニ之ヲ實行スヘシ

第十四條

兩締約國ノ一方ノ定期郵便運送ノ任務ニ當ル船舶ハ國有メルト國家ヨリ之カ爲補助ヲ受クル會社ニ屬スルトノ別ナク他ノ一方ノ領水內ニ於テ同樣ノ最惠國船舶ニ許與セラルル便益、特權及免除ヲ享有スヘシ

第十五條

沿岸貿易ハ本條約ノ規定スル限ニ在ラス日本國及佛蘭西國各自ノ國法ノ定ムル所ニ依ル但シ日本國民ハ佛蘭西國ニ於テ又佛蘭西國民ハ日本國ニ於テ沿岸貿易ニ關スル一切ノ事項ニ付右國法カ最惠國ノ國民ニ許與シ又ハ許與スルコトアルヘキ權利及特權ヲ享有スヘキモノトス

兩締約國ノ一方ノ船舶ニシテ他ノ一方ノ版圖內ノ二箇以上ノ輸入港ヘ仕向ケラレタル貨物ヲ外國ニ於テ積載シタルモノハ右諸港ノ一ニ於テ其ノ貨物ノ一部ヲ陸揚シ更ニ他ノ一港又ハ數港ニ續航シテ其ノ地ニ貨物ノ殘部ヲ陸揚スルコトヲ得但シ當ニ到達國ノ國法、稅法及稅關規則ニ從フコトヲ要ス又同樣ノ方法及同一ノ制限ニ依リ締約國ノ一方ノ船舶ハ他ノ一方ノ港ヨリ其ノ國外ニ向ヒ發航ノ途次該國ノ數港ニ於テ貨物ヲ船積スルコトヲ得

第十六條

兩締約國ハ千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ調印セラレタル工業所有權保護同盟條約ノ加入國タルコトヲ聲明シ而シテ其ノ一方カ該條約ヨリ脫退シタル場合ニ於テハ兩締約國ハ左ノ規定ニ依ルヘキコトヲ約定ス

各締約國ノ國民ハ他ノ一方ノ版圖內ニ於テ特許、商標、各種工業的意匠、商號及產地表記ノ保護竝不正競爭ノ防遏ニ關スル一切ノ事項ニ付法定ノ手續及條件ヲ履行スルニ於テハ內國民ト同一ノ權利ヲ享有スヘシ

締約國ノ一方又ハ其ノ版圖內ノ一地方ヲ原產國又ハ原產地トシテ直接又ハ間接ニ表示シタル詐稱ノ產地表記ヲ有スル物品ハ其ノ輸入ニ當リ國法ノ認ムル場合ニ於テハ稅關檢事又ハ利害關係人ノ請求ニ依リ差押ヘラルヘク然ラサル場合ニ於テハ內國民カ國法上同樣ノ場合ニ有スル救濟手段ヲ適用セラルヘシ

第十七條

兩締約國ハ各締約國ノ通商、工業及航海ヲシテ總テ最惠國待遇ヲ享受セシムルノ意思ナルニ因リ通商、工業及航海ニ關スル一切ノ事項ニ付其ノ一方カ別國ノ通商、工業及航海ニ對シテ現ニ許與シ又ハ今後許與スルコトアルヘキ一切ノ特權、恩典又ハ免除ヲ即時且無條件ニテ他ノ一方ノ通商、工業及航海ニ及ホスヘキコトニ同意ス

第十八條

本條約ノ規定ハ左ノ事項ニ之ヲ適用セス

一　國境貿易ヲ便ナラシメムカ爲兩締約國ノ一方カ接境國ニ現ニ許與シ又ハ今後許與スルコトアルヘキ特殊ノ利益

二　關稅同盟ニ基ク殊遇

三　內國民漁業及之ニ準セラルル漁業

四　內國商船ニ許與シ又ハ許與スルコトアルヘキ奬勵

第十九條

本條約ノ規定ハ之ヲ「アルゼリー」ニ適用ス佛蘭西國ノ殖民地、屬地及保護國ニ關シテハ兩國政府ノ合意シタル聲明ニ依リ今後本條約ノ規定ノ全部又ハ一部ヲ適用スルコトヲ得

本條約ハ又日本國ノ殖民地及屬地ニ總テ之ヲ適用スルモノトス

第二十條

本條約ハ批准ヲ要ス其ノ批准書ハ東京ニ於テ交換スヘシ而シテ之カ批准アリ

8606

タルトキハ成ルヘク速ニ日本國政府及佛蘭西國政府ニ於テ各其ノ代表者ニ由リ五ニ之ヲ通告スヘシ本條約ハ後ノ通告ノ日ヨリ實施シ十年間其ノ效力ヲ有ス

尤モ日本國製產品カ佛蘭西國ニ於テ又佛蘭西國製產品カ日本國ニ於テ徵收セラルル關稅ハ最惠國製產ノ同樣物品ヨリ徵收スル所ト異ナルカ又ハ之ヨリ多額ナルコトナカルヘキコトヲ規定セル第五條ハ各締約國ニ於テ何時ニテモ其ノ廢棄ヲ聲明スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ該條ハ廢棄聲明後一年ヲ經テ其ノ效力ヲ失フヘシ

本條約終了期日ノ十二月前ニ兩締約國ノ孰レノ一方ヨリモ本條約ノ效力ヲ消滅セシムルノ意思ヲ通告セサルトキハ本條約ハ締約國ノ一方カ其ノ廢棄ヲ聲明シタル日ヨリ一年ノ期間ノ滿了ニ至ル迄引續キ效力ヲ有ス

右證據トシテ兩國全權委員本條約ニ署名調印ス

千九百十一年八月十九日巴里ニ於テ本書二通ヲ作ル

栗野慎一郎
ジー、ド、セルヴ
エル、エル、グロッソ
シャルル、クイパ

天佑ヲ保有シ萬世一系ノ帝祚ヲ踐メル日本國皇帝（御名）此ノ書ヲ見ル有衆ニ宣示ス

朕明治四十四年八月十九日巴里ニ於テ帝國全權委員カ佛蘭西國全權委員ト共ニ署名調印シタル日佛通商航海條約ヲ閱覽點檢シ之ヲ嘉納批准ス

神武天皇即位紀元二千五百七十二年明治四十五年一月十一日東京宮城ニ於テ親ラ名ヲ署シ璽ヲ鈐セシム

御名國璽

外務大臣　子爵　內田康哉

附屬議定書

第一條

兩締約國ハ附屬稅表甲號ニ記載スル佛蘭西國產商品ハ日本國ニ輸入セラルルニ當リ又附屬稅表乙號ニ記載スル日本國產商品ハ佛蘭西國ニ輸入セラルルニ當リ右各稅表ニ揭クル稅率ニ依ルヘキコトヲ約定ス

第二條

右稅率ハ之ヲ增減スルコトヲ得但シ兩締約國ノ距離遠隔ナルニ因リ甲乙稅表ニ記載スル商品ニ課スヘキ稅率ノ增加ハ之ヲ規定スル法令ノ公布後五月ヲ經過スルニ非サレハ適用セラレサルヘシ尤モ該法令カ之ヨリモ長キ猶豫期間ヲ定メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ依リ孰レカ一方ノ稅表變更セラルル場合ニ於テハ變更セラレサル稅表ニ記載シタル商品ノ稅率ハ稅表ノ稅率增加ノ實施ト同時ニ之ヲ無效ニ歸セシムルコトヲ得但シ少クトモ三月前ニ之ヲ豫告スヘシ

第三條

前條第二項ニ定ムル廢棄ノ權能行使セラレタルトキハ通商航海條約ト同時ニ之ヲ兩締約國ニ提出シ第六條、第七條及第十七條ノ規定ハ關稅事項ニ關スル限リ右廢棄ト同時ニ當然其ノ效力ヲ失フヘシ

第四條

本議定書ハ本日調印セラレタル通商航海條約ト同時ニ之ヲ兩締約國ニ提出シ而シテ該條約批准セラルルトキハ本議定書ハ別ニ正式ノ批准ヲ要セスシテ是認セラレタルモノト看做スヘシ

本議定書ハ其ノ附屬スル條約又ハ該條約第五條ト同時ニ終了スヘキモノトス尤モ各締約國ハ何時ニテモ本議定書ノ廢棄ヲ聲明スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ廢棄聲明後五月ヲ經テ其ノ效力ヲ失フヘク之ト同時ニ前記第三條ノ規定ヲ適用スヘキモノトス

右證據トシテ兩國全權委員本議定書ニ署名調印ス

千九百十一年八月十九日巴里ニ於テ本書二通ヲ作ル

栗野慎一郎
ジー、ド、セルヴ
エル、エル、グロッソ
シャルル、クイパ

附屬稅表甲號

日本國輸入稅

品名	單位	從價
佛蘭西國商品ニ適用スル稅率ヲ算出スヘキ日本國國定稅率ノ百分率	上欄記載ノ百分率ニ依リ算出セル佛蘭西國商品ニ適用スル稅率	五〇、〇 圓 二割
五二ノ內 二、乙、鯨油漬	毎百斤	九一、二 二七、〇〇
五三ノ內 天然バター		
葡萄ノ天然醱酵ニ依リテノミ釀造セル非沸騰性各種葡萄酒 但シ攝氏十五度ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル	毎百斤	六二、九 一八、〇〇
一七 石鹼		
一 藥香ヲ付シタルモノ	毎百斤 內裝共	六二、九 一八、〇〇
二 其ノ他	毎百斤	五〇、九 二、九〇
蒸香ヲ付シタル油、脂及蠟	毎百斤 容器及內裝共	四四、九 三五、〇〇
其ノ製品		
香水		
一 蒸香ヲ付シタルヴィネガー	同	三三、三 三〇、〇〇
二 其ノ他	同	五五、六 五〇、〇〇
齒磨粉、齒洗藥、化粧粉其ノ他別號ニ揭ケサル調製蒸香類	同	五〇、〇 二割五分
二八三ノ內 毛織絲		
一 染メサルモノ又ハ捺染セサルモノ	毎百斤	一〇〇、〇 圓 一三、一〇
丙 其ノ他（梳毛絲ト紡毛絲トヲ撚合セタルモノ「番手ノ異リタル絲ヲ撚合セタルモノ及輪絲」以外ノモノ）	同	七五、四 一三、一〇
二 其ノ他（天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルヲ切リタルト否トヲ別タス）以外ノモノ）		
甲 毛製ノモノ		
イ 一平方メートルニ付百グラムヲ超エサルモノ	毎百斤	七五、〇 四三、一〇
其ノ他	同	

モノヲ純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量十四ヲ超エサルモノ

甲 罎入ノモノ　毎百リットル　二七、五　一五、〇〇

乙 樽入ノモノ　同　三三、三　五、〇〇

但シ攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル糖分ヲ葡萄糖トシテ計算シタル重量二十グラムヲ超エサルモノ

甲 罎入ノモノ　同　五〇、〇　二〇、〇〇

乙 樽入ノモノ　同　三三、三　一〇、〇〇

但シ攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル糖分ヲ葡萄糖トシテ計算シタル重量二十グラムヲ超エサルモノ

ヴェルモット　二二、三　三〇、〇〇

但シ攝氏十五度ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量十四ヲ超エ二十四ヲ超エサルモノ　二八三ノ內

甲 罎入ノモノ　同　五〇、〇　二〇、〇〇

乙 樽入ノモノ　同　三三、三　一〇、〇〇

但シ攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル糖分ヲ葡萄糖トシテ計算シタル重量二十グラムヲ超エサルモノ以外ノモノ）　一一九

ヴェルモット

但シ攝氏十五度ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スルモノヲ純酒精トシ原容量百分中純酒精ノ容量十四ヲ超エ二十四ヲ超エサルモノ　二八三ノ內

甲 罎入ノモノ　同　五〇、〇　二〇、〇〇

乙 樽入ノモノ　同　三三、三　一〇、〇〇

但シ攝氏十五度ニ於テ百立方センチメートル中ニ於ケル糖分ヲ葡萄糖トシテ計算シタル重量二十グラムヲ超エサルモノ以外ノモノ）　一一九

香水

一 蒸香ヲ付シタルヴィネガー　同　三三、三　三〇、〇〇

二 其ノ他　同　五五、六　五〇、〇〇

齒磨粉、齒洗藥、化粧粉其ノ他別號ニ揭ケサル調製蒸香類　從價　五〇、〇　二割五分

二八三ノ內 毛織絲

一 染メサルモノ又ハ捺染セサルモノ　毎百斤　一〇〇、〇 圓　一三、一〇

丙 其ノ他（梳毛絲ト紡毛絲トヲ撚合セタルモノ「番手ノ異リタル絲ヲ撚合セタルモノ及輪絲」以外ノモノ）　同　七五、四　一三、一〇

二 其ノ他（天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルヲ切リタルト否トヲ別タス）以外ノモノ）

甲 毛製ノモノ

イ 一平方メートルニ付百グラムヲ超エサルモノ　毎百斤　一三、一〇 圓

其ノ他　同　一三、一〇

二八五 二、乙、鯨油漬　毎百斤　九一、二　二七、〇〇

二八五ノ內 天然バター

葡萄ノ天然醱酵ニ依リテノミ釀造セル非沸騰性各種葡萄酒

但シ攝氏十五度ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル　毎百斤　六二、九　一八、〇〇

二 其ノ他　同　五〇、九　二、九〇

蒸香ヲ付シタル油、脂及蠟其ノ他ノ製品　毎百斤 容器及內裝共　四四、九　三五、〇〇

香水

一 蒸香ヲ付シタルヴィネガー　同　三三、三　三〇、〇〇

二 其ノ他　同　五五、六　五〇、〇〇

齒磨粉、齒洗藥、化粧粉其ノ他別號ニ揭ケサル調製蒸香類　從價　五〇、〇　二割五分

二八三ノ內 毛織絲

一 染メサルモノ又ハ捺染セサルモノ　毎百斤　一〇〇、〇 圓　一三、一〇

丙 其ノ他（梳毛絲ト紡毛絲トヲ撚合セタルモノ「番手ノ異リタル絲ヲ撚合セタルモノ及輪絲」以外ノモノ）　同　七五、四　一三、一〇

二 其ノ他（天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルヲ切リタルト否トヲ別タス）以外ノモノ）

甲 毛製ノモノ

イ 一平方メートルニ付百グラムヲ超エサルモノ　毎百斤　一三、一〇 圓

其ノ他　同　一三、一〇

二八五 二、乙、鯨油漬　毎百斤　九一、二　二七、〇〇

二八五ノ內 天然バター

葡萄ノ天然醱酵ニ依リテノミ釀造セル非沸騰性各種葡萄酒

但シ攝氏十五度ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル　毎百斤　六二、九　一八、〇〇

二 其ノ他　同　五〇、九　二、九〇

蒸香ヲ付シタル油、脂及蠟其ノ他ノ製品　毎百斤 容器及內裝共　四四、九　三五、〇〇

香水

一 蒸香ヲ付シタルヴィネガー　同　三三、三　三〇、〇〇

二 其ノ他　同　五五、六　五〇、〇〇

齒磨粉、齒洗藥、化粧粉其ノ他別號ニ揭ケサル調製蒸香類　從價　五〇、〇　二割五分

二八三ノ內 毛織絲

一 染メサルモノ又ハ捺染セサルモノ　毎百斤　一〇〇、〇 圓　一三、一〇

丙 其ノ他（梳毛絲ト紡毛絲トヲ撚合セタルモノ「番手ノ異リタル絲ヲ撚合セタルモノ及輪絲」以外ノモノ）　同　七五、四　一三、一〇

二 其ノ他（天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルヲ切リタルト否トヲ別タス）以外ノモノ）

甲 毛製ノモノ

イ 一平方メートルニ付百グラムヲ超エサルモノ　毎百斤　一三、一〇 圓

其ノ他　同　一三、一〇

二八五 二、乙、鯨油漬　毎百斤　九一、二　二七、〇〇

二八五ノ內 天然バター

葡萄ノ天然醱酵ニ依リテノミ釀造セル非沸騰性各種葡萄酒

但シ攝氏十五度ニ於テ〇、七九四七ノ比重ヲ有スル　毎百斤　六二、九　一八、〇〇

二 其ノ他　同　五〇、九　二、九〇

蒸香ヲ付シタル油、脂及蠟其ノ他ノ製品　毎百斤 容器及內裝共　四四、九　三五、〇〇

香水

一 蒸香ヲ付シタルヴィネガー　同　三三、三　三〇、〇〇

二 其ノ他　同　五五、六　五〇、〇〇

齒磨粉、齒洗藥、化粧粉其ノ他別號ニ揭ケサル調製蒸香類　從價　五〇、〇　二割五分

二八三ノ內 毛織絲

一 染メサルモノ又ハ捺染セサルモノ　毎百斤　一〇〇、〇 圓　一三、一〇

丙 其ノ他（梳毛絲ト紡毛絲トヲ撚合セタルモノ「番手ノ異リタル絲ヲ撚合セタルモノ及輪絲」以外ノモノ）　同　七五、四　一三、一〇

二 其ノ他（天鵞絨、プラッシュ其ノ他ノパイル織物（パイルヲ切リタルト否トヲ別タス）以外ノモノ）

甲 毛製ノモノ

イ 一平方メートルニ付百グラムヲ超エサルモノ　毎百斤　一三、一〇 圓

其ノ他　同　一三、一〇

許可 8606号

○府令

臺灣總督府令第十三號

臺灣永代借地權令施行規則左ノ通相定ム

明治四十五年一月二十三日　臺灣總督　伯爵佐久間左馬太

第一條　本令ニ於テ本則ト稱スルハ臺灣永代借地權令ヲ謂フ

第二條　本則第七條ノ規定ニ依リ業主權ヲ取得シタルモノハ永代借地權ノ登記ヲ受クルトキハ登記官廳ハ前項ノ謄記ヲ以テ業主權移轉ノ登記ヲ爲スヘシ

移轉ノ登記ヲ爲スヘシ

業主若ヲ其ノ土地カ既登記ナルトキハ登記官廳ハ職權ヲ以テ業主權移轉ノ登記ヲ爲スヘシ

業主ニ更正ヲ爲サシムヘキ場合ニ於テ永代借地權ノ登記ヲ爲スヘシ

第三條　本則第六條ノ場合ニ於テ永代借地權ヲ帝國臣民ト外國人トノ共有ニ屬スルトキハ臺帳ニ其ノ土地ノ分割ニ因リテ業主權ヲ取得シタル者ニ之ヲ通知スヘシ

土地ノ分割ニ因リテ業主權ヲ取得シタル者ニ之ヲ通知スヘシ

第四條　本則第七條ノ規定ニ依リ業主權ヲ取得シタル土地ノ既登記ナルトキハ登記官廳ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキ職權ヲ以テ業主權取得ノ登記ヲ爲スヘシ

登記官廳ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキ職權ヲ以テ業主權取得ノ登記ヲ爲スヘシ

第五條　本則第八條ノ規定ニ依リ借地料ニ相當スル金額ノ支拂ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ登記官廳ニ申立ツヘシ

第六條　永代借地權ノ登記ニ付テハ登記法中不動産ノ登記ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣永代借地權令施行規則

第一條　本令ニ於テ本則ト稱スルハ臺灣永代借地權令ヲ謂フ

第二條　本則第六條ノ規定ニ依リ業主權ヲ取得シタル者ハ永代借地權ノ登記ヲ受クルトキハ登記官廳ハ職權ヲ以テ業主權移轉ノ登記ヲ爲スヘシ

業主若ヲ其ノ土地カ既登記ナルトキハ登記官廳ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキ職權ヲ以テ業主權取得ノ登記ヲ爲スヘシ

登記官廳ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキ職權ヲ以テ業主權取得ノ登記ヲ爲スヘシ

第三條　本則第六條ノ場合ニ於テ永代借地權カ帝國臣民ト外國人トノ共有ニ屬スルトキハ臺帳ニ其ノ土地ノ分割ニ因リテ業主權ヲ取得シタル者ニ之ヲ通知スヘシ

業主若ヲ其ノ土地カ既登記ナルトキハ登記官廳ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキ職權ヲ以テ業主權取得ノ登記ヲ爲スヘシ

第四條　本則第七條ノ規定ニ依リ業主權ヲ取得シタル土地ノ既登記ナルトキハ登記官廳ハ前項ノ通知ヲ受ケタルトキ職權ヲ以テ業主權取得ノ登記ヲ爲スヘシ

第五條　本則第八條ノ規定ニ依リ借地料ニ相當スル金額ノ支拂ヲ受ケントスル者ハ其ノ旨ヲ登記官廳ニ申立ツヘシ

第六條　永代借地權ノ登記ニ付テハ登記法中不動産ノ登記ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府令第十四號

永代借地及其ノ上ニ存スル建物登記規則左ノ通相定ム

明治四十五年一月二十三日　臺灣總督　伯爵佐久間左馬太

第一條　永代借地及其ノ上ニ存スル建物登記ニ關シテハ本則ノ定ムル所ニ依ル

第二條　永代借地權ノ移轉變更又ハ消滅ハ本則ニ依リ登記ヲ爲スニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス但シ相續又ハ遺言ニ因ル場合ヲ除ク

第三條　永代借地權ノ設定移轉變更又ハ消滅ハ本則ニ依リ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四條　永代借地及其ノ上ニ存スル建物ニ付テハ特ノ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條　登記官廳ハ永代借地登記簿ハ永代借地權ノ一筆ニ付一葉ヲ設ケ之ニ登記ヲ爲スヘシ

第六條　永代借地登記簿ハ其ノ一用紙ヲ以テ一區トシ區ヲ分チ左ノ表示欄權利部ニ區分シ各區ニ事項欄ヲ設ケ各區ニ事項ノ順位番號ヲ記載スヘシ

登記ノ順序ハ各永代借地ニ付登記ニ始メテ登記ヲ爲シタル日ヲ以テ定ム

登記ノ順序ハ各永代借地ニ付登記ニ始メテ登記ヲ爲シタル日ヲ以テ定ム

第七條　永代借地權ノ設定ヲ申請スル場合ニ於テハ申請人ハ其ノ土地ノ地積ニ對スル地價ヲ登記官廳ニ納付スヘシ

第八條　第六條ノ規定ニ依リ業主ト爲リタル者ハ永代借地權ニ關スル規則ヲ準用ス

第九條　前項ノ利益ハ借地權ニ關スル規則ヲ準用ス

第十條　前二條ノ義務ハ永代借地權ヲ設定シタル者ノ相續人又ハ讓受人ニ於テモ亦同シ

第十一條　永代借地權ニ付本令施行ノ日ヨリ國庫ニ對シテ借地料ヲ支拂フ義務ヲ負フ者ハ本令施行前ノ借地料ニシテ未タ國庫ニ支拂ハサルモノニ付亦同シ

第十二條　本令施行ノ際永代借地權ヲ目的トスル典權質權又ハ賃貸借ノ登記ヲ爲シタル非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第一條　永代借地權ノ設定移轉變更又ハ消滅ハ本令ニ依リ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條　永代借地ノ上ニ存スル建物ニ付左ニ掲クル權利ノ設定保存移轉變更處分ノ制限又ハ消滅ハ本令ニ依リ登記ヲ爲スニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

一　典權

二　賃貸權

三　地役權

四　先取特權

五　質權

六　抵當權

第三條　永代借地及其ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ハ其ノ土地ヲ管轄スル登記官廳ニ之ヲ取扱ハシム

第四條　永代借地及其ノ上ニ存スル建物ノ登記ニ付テハ特ノ登記簿ヲ設ケ

登記官廳ハ前項ノ登記簿ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　永代借地ノ表示

二　永代借地ノ地積

三　地代

四　地代ノ支拂期

五　地代ノ支拂場所

六　地代ノ增減ニ關スル特約

七　永代借地權ノ設定ノ年月日

八　永代借地權ノ設定ヲ受ケタル者ノ住所氏名

九　建物ノ表示

十　建物ノ所有者ノ住所氏名

十一　建物ノ保險金額

十二　建物ノ保險金額ノ支拂ヲ受ケタル者ノ住所氏名

十三　建物ノ保險金額ノ支拂ヲ受ケタル年月日

十四　建物ノ保險金額ノ支拂ヲ受ケタル事由

十五　建物ノ保險金額ノ支拂ヲ受ケタル金額

十六　建物ノ保險金額ノ支拂ヲ受ケタル後ノ殘額

十七　建物ノ保險金額ノ支拂ヲ受ケタル後ノ殘額ノ保險金額

第五條　登記官廳ハ永代借地登記簿ノ一種トス

第六條　永代借地登記簿ハ其ノ一用紙ヲ以テ一區トシ區ヲ分チ左ノ表示欄權利部ニ區分シ各區ニ事項欄ヲ設ケ各區ニ事項ノ順位番號ヲ記載スヘシ

登記ノ順序ハ各永代借地ニ付登記ニ始メテ登記ヲ爲シタル日ヲ以テ定ム

表示欄ニハ永代借地ノ表示ヲ爲シ其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ永代借地ノ表示ニ付登記ヲ爲シタル順序ヲ記載スヘシ

甲區ニハ永代借地權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

乙區ニハ典權及賃借權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

丙區ニハ先取特權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

丁區ニハ質權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

戊區ニハ抵當權ニ關スル事項ヲ記載スヘシ

順序ヲ記載スヘシ

○律令

臺灣永代借地權令

明治三十九年法律第三十一號第一條及第二條ニ依リ勅裁ヲ得テ玆ニ之ヲ公布ス

明治四十五年一月二十三日　臺灣總督　伯爵佐久間左馬太

臺灣永代借地權令

第一條　臺灣ニ於ケル土地ニ關シ永代ノ地權ヲ設定セントスル者ハ臺灣總督ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　永代ノ地權ヲ設定シタル土地ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ地價ヲ納付スヘシ

第三條　永代ノ地權ヲ設定シタル土地ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ免除ス

第四條　永代ノ地權ヲ設定シタル土地ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ免除ス

第五條　永代ノ地權ヲ設定シタル土地ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ免除ス

第六條　永代ノ地權ヲ設定シタル土地ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ免除ス

第七條　永代ノ地權ヲ設定シタル土地ニ付テハ臺灣總督ノ定ムル所ニ依リ地租ヲ免除ス

第八條　第六條ノ規定ニ依リ業主ト爲リタル者ハ永代借地權ニ關スル規則ヲ準用ス

第九條　前項ノ利益ハ借地權ニ關スル規則ヲ準用ス

第十條　前二條ノ義務ハ永代借地權ヲ設定シタル者ノ相續人又ハ讓受人ニ於テモ亦同シ

第十一條　永代借地權ニ付本令施行ノ日ヨリ國庫ニ對シテ借地料ヲ支拂フ義務ヲ負フ者ハ本令施行前ノ借地料ニシテ未タ國庫ニ支拂ハサルモノニ付亦同シ

第十二條　本令施行ノ際永代借地權ヲ目的トスル典權質權又ハ賃貸借ノ登記ヲ爲シタル非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第8106号　官報　本文

第七條　永代借地建物登記簿ハ其ノ一用紙ヲ登記番號欄、表題部及甲乙丙丁ノ四區ニ分チ尚表題部ニ表示欄、表示番號欄ヲ設ケ各區ニ事項欄、順位番號欄ヲ設ク

登記番號欄ニハ各建物ニ付登記簿ニ始メテ登記ヲ爲シタル順序ヲ記載ス

表示欄ニハ建物及附屬建物ノ表示ヲ爲シ及其ノ變更ニ關スル事項ヲ記載シ表示番號欄ニハ表示欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

甲區事項欄ニハ所有權ニ關スル事項ヲ記載ス

乙區事項欄ニハ地役權ニ關スル事項ヲ記載ス

丙區事項欄ニハ先取得權質權及抵當權ニ關スル事項ヲ記載ス

丁區事項欄ニハ賃借權ニ關スル事項ヲ記載ス

順位番號欄ニハ事項欄ニ登記事項ヲ記載シタル順序ヲ記載ス

第八條　永代借地登記簿ハ附錄第一號雛形ニ依リ永代借地建物登記簿ハ附錄第二號雛形ニ依リ覆審法院ニ於テ之ヲ調製スヘシ

第九條　臺灣永代借地權令第二條第一項ノ規定ニ依リ業主權ヲ取得シタル者アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ永代借地登記簿ノ用紙ヲ閉鎖シ普通登記簿ニ業主權保存ノ登記ヲ爲スヘシ

臺灣永代借地權令第二條第二項ノ規定ニ依リ業主權ヲ取得シタル者アルトキ亦前項ニ同シ但シ其ノ土地カ永代借地登記簿ニ未登記ナルトキハ直ニ普通登記簿ニ業主權保存ノ登記ヲ爲スヘシ

第十條　前條第一項ノ登記ハ帝國ノ臣民又ハ法人カ永代借地權取得ノ登記ヲ爲シタル後之ヲ爲シ前條第二項ノ登記ハ帝國ノ臣民ト爲リタル者カ身分ノ變更ヲ證明シ業主權取得ノ申立アリタル場合ニ之ヲ爲スヘシ

第十一條　第九條ノ場合ニ於テ永代借地登記簿中永代借地ヲ目的トスル他ノ權利ニ關スル登記アルトキ又ハ永代借地建物登記簿中建物ニ關スル登記アルトキハ之ヲ普通登記簿ニ移記スヘシ

第十二條　前條ノ規定ニ依リ他ノ權利ニ關スル登記又ハ永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ヲ普通登記簿ニ移ストキハ登記用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追テ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ表示欄及事項欄ニ移シタル登記ノ末尾ニ前登記簿第何冊第何丁ヨリ移シタル旨及年月日ヲ記載シ登記官吏捺印スヘシ

第十三條　臺灣永代借地權令第八條ノ支拂義務ハ申立ニ依リ之ヲ永代借地登記簿ニ附記スヘシ

前項ノ登記ヲ爲シタル後補償ニ因リ支拂義務消滅シタルトキハ申立ニ依リ附記登記ヲ抹消スヘシ

第十四條　永代借地權ノ保存登記ハ永代借地整理簿ニ登錄セラレタル者又ハ其ノ相續人ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第十五條　永代借地ノ上ニ存スル建物ノ保存登記ハ建物敷地ノ永代借地權者トシテ永代借地登記簿ニ登記セラレタル者又ハ既登記敷地ノ永代借地權者ノ證明書ニ依リ自己ノ所有權ヲ證スル者ヨリ之ヲ申請スルコトヲ得

第十六條　臺灣永代借地權令第十二條ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テ永代借地權カ未登記ナルトキハ申請書ニ永代借地整理簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

未登記ノ永代借地權ヲ目的トスル權利ニ付登記ノ申請アリタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ先ツ永代借地權ノ登記ヲ爲スヘシ

第十七條　本令ニ定ムル場合ノ外永代借地ニ關スル登記ニ付テハ臺灣土地登記規則及臺灣土地登記規則施行規則永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關スル登記ニ付テハ臺灣不動產登記規則及建物登記ニ關スル取扱手續ノ規定ヲ準用ス

第十八條　永代借地權者ハ臺灣永代借地權令施行後六月內ニ永代借地整理簿ノ土地表示及永代借地權者ノ記載ヲ永代借地登記簿ニ移記ノ申立ヲ爲スコトヲ得

前項ノ申立ニハ永代借地整理簿ノ謄本ヲ添附スヘシ

第一項ノ申立アリタルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ永代借地權保存ノ登記ヲ爲スヘシ

第十九條　永代借地登記簿ニ登記セラレタル永代借地ノ上ニ存スル建物ニ付臺灣不動產登記規則ニ依リ登記シタル建物ノ登記アルトキハ登記官吏ハ職權ヲ以テ永代借地建物登記簿ニ之ヲ移記スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ本令ニ依リ備ヘタル登記簿ノ用紙中登記番號欄ニ其ノ登記簿ニ於ケル登記ノ順序ヲ追テ新ナル番號ヲ記載シ其ノ左側ニ前登記番號ヲ記載シ表示欄ニ建物ノ表示ヲ爲シ相當區順位番號欄及事項欄ニ舊登記簿ノ用紙ニ爲シタル登記ヲ移スヘシ

第二十條　明治三十二年勅令第二百五十一號ヲ以テ定メタル期日前ニ本令ニ依リ登記シタル永代借地ノ上ニ存スル建物ニ關シ外國領事廳ニ於テ爲シタル登記ハ明治三十三年律令第四號施行ノ際領事廳ヨリ登記簿又ハ其ノ謄本ヲ登記官廳ニ引渡シタルモノニ限リ本令ニ依リ爲シタル登記ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十一條　明治三十三年律令第四號施行ノ際引渡ヲ受ケタル外國領事廳ノ登記簿謄本中建物ニ關スル登記及明治三十三年府令第三號第一條ニ依リ調

製シタル建物登記簿ノ記載ハ登記官吏職權ヲ以テ永代借地建物登記簿ニ之ヲ移記スヘシ

第十九條第二項ノ規定ハ前項ノ移記ニ之ヲ準用ス

附錄第一號

永代借地登記簿

地方法院

紙數表紙ヲ除キ　枚

覆審法院長

（永代借地權）

乙區（典權及賃借權）

丙區（賃借權）

永代借地登記簿

丁

附錄第二號

永代借地建物登記簿

地方法院

紙數表紙ヲ除キ　枚

覆審法院長

表題部（永代借地表示）

登記番號　第　號

表示番號　表示欄　表示番號　表示欄　表示番號　表示欄

甲區

順位番號　事項欄　順位番號　事項欄　順位番號　事項欄

丁

乙區（地役權）

丙區（先取特權質權及抵當權）

丁區（賃借權）

永代借地建物登記簿

8606

○訓令

逓信省訓令第六號

明治四十四年度逓信所管歳入歳出科目表中左記ノ通追加ス

明治四十五年二月一日　　陸軍大臣　男爵　石本新六

歳入臨時部

款	項	目	節
雑収入	官有財産収入		
〃	公債償還金収入		
〃	公債証書収入		

歳出臨時部

款	項	目	節
営繕費			
〃	修繕費		
〃	〃	朝鮮総督府逓信官署修繕費	

○告示

文部省告示第四十七號

新潟縣西蒲原郡巻町ニ設置セル郡立簡易女子職業学校ヲ明治四十五年三月三十一日限リ廃止ノ件閣議ヲ経タリ

明治四十五年二月二十九日　　文部大臣　長岡外史

逓信省告示第百六十八號

来四月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十五年二月二十九日　　逓信大臣　伯爵　林董

名称	位置
岩国郵便局	山口縣岩国町
素鵞簡易郵便局	島根縣出雲国簸川郡素鵞村
白潟郵便局	千葉縣夷隅郡大原町
千葉簡易生命保険郵便局	千葉縣千葉市

逓信省告示第百六十九號

本日限リ左記電信取扱所ニ於ケル電報配達事務ヲ廃止ス

明治四十五年二月二十九日　　逓信大臣　伯爵　林董

名称	位置
岩国郵便電信取扱所	山口縣岩国町
素鵞簡易郵便電信取扱所	島根縣出雲国簸川郡素鵞村

逓信省告示第百七十號

明治三十年逓信省告示第三百五十七號中新宮郵便局ノ部加入區域ノ内ニ左記ヲ追加シ来三月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年二月二十九日　　逓信大臣　伯爵　林董

和歌山縣東牟婁郡新宮町字浜元

逓信省告示第百六十九號

明治三十年逓信省告示第三百六十四號加入區域外通話區域及通常電話料中左ノ通追加シ来三月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年二月二十九日　　逓信大臣　伯爵　林董

加入區域外	金一通話ニ付金五銭	加入區域外	金一通話ニ付金五銭
江井ヶ島	金二十銭	江井ヶ島	金二十銭
江井ヶ島西岡	金二十銭	江井ヶ島西岡	金二十銭
江井ヶ島新家西岡	金二十五銭	江井ヶ島新家西岡	金二十五銭

逓信省告示第百七十號

来三月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十五年二月二十九日　　逓信大臣　伯爵　林董

名称	位置
佐賀高木郵便局	佐賀縣佐賀郡高木村

逓信省告示第百七十一號

来三月一日ヨリ左記郵便局ニ電信事務ヲ開始ス

明治四十五年二月二十九日　　逓信大臣　伯爵　林董

名称	位置
大分津留郵便局	大分縣東国東郡国東村

逓信省告示第百七十二號

明治三十年逓信省告示第三百六十四號加入區域外通話區域及通常電話料中左ノ通追加シ来三月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年二月二十九日　　逓信大臣　伯爵　林董

加入區域外	金一通話ニ付金五銭	加入區域外	金一通話ニ付金五銭
札幌	金三十五銭	札幌	金三十五銭
琴似	金三十五銭	琴似	金三十五銭
発寒	金三十五銭	発寒	金三十五銭
手稲	金三十五銭	手稲	金三十五銭
小樽	金二十五銭	小樽	金二十五銭
銭函	金二十五銭	銭函	金二十五銭
石狩	金二十五銭	石狩	金二十五銭
江上	金二十五銭	江上	金二十五銭
太美	金二十五銭	太美	金二十五銭
浜益	金二十五銭	浜益	金二十五銭
厚田	金二十五銭	厚田	金二十五銭

逓信省告示第百七十三號

明治三十年逓信省告示第三百六十四號加入區域外通話區域及通常電話料中左ノ通追加シ来三月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年二月二十九日　　逓信大臣　伯爵　林董

加入區域外	金一通話ニ付金五銭	加入區域外	金一通話ニ付金五銭
大阪	金十銭	堂島	金二十銭
西成	金十銭	津守	金二十銭
住吉	金十銭	住吉	金二十銭
天王寺	金十銭	天王寺	金二十銭
東成	金十銭	東成	金二十銭
今里	金十銭	今里	金二十銭
生野	金十銭	生野	金二十銭
布施	金十銭	布施	金二十銭
八尾	金十銭	八尾	金二十銭
堺	金十銭	堺	金二十銭
浜寺	金十銭	浜寺	金二十銭
鳳	金十銭	鳳	金二十銭
岸和田	金十銭	岸和田	金二十銭
貝塚	金十銭	貝塚	金二十銭
泉佐野	金十銭	泉佐野	金二十銭
和歌山	金十銭	和歌山	金二十銭
吹田	金十銭	吹田	金二十銭
豊中	金十銭	豊中	金二十銭
池田	金十銭	池田	金二十銭
伊丹	金十銭	伊丹	金二十銭
尼崎	金十銭	尼崎	金二十銭
西宮	金十銭	西宮	金二十銭
芦屋	金十銭	芦屋	金二十銭
神戸	金十銭	神戸	金二十銭
須磨	金十銭	須磨	金二十銭
明石	金十銭	明石	金二十銭
高砂	金十銭	高砂	金二十銭
姫路	金十銭	姫路	金二十銭
網干	金十銭	網干	金二十銭
相生	金十銭	相生	金二十銭
龍野	金十銭	龍野	金二十銭
赤穂	金十銭	赤穂	金二十銭
津山	金十銭	津山	金二十銭
倉敷	金十銭	倉敷	金二十銭
玉島	金十銭	玉島	金二十銭
笠岡	金十銭	笠岡	金二十銭
福山	金十銭	福山	金二十銭
尾道	金十銭	尾道	金二十銭
三原	金十銭	三原	金二十銭
呉	金十銭	呉	金二十銭
広	金十銭	広	金二十銭
竹原	金十銭	竹原	金二十銭
西条	金十銭	西条	金二十銭
今治	金十銭	今治	金二十銭
松山	金十銭	松山	金二十銭
高浜	金十銭	高浜	金二十銭
伊予北条	金十銭	伊予北条	金二十銭
新居浜	金十銭	新居浜	金二十銭
伊予三島	金十銭	伊予三島	金二十銭
川之江	金十銭	川之江	金二十銭
土佐	金十銭	土佐	金二十銭
高知	金十銭	高知	金二十銭
須崎	金十銭	須崎	金二十銭
宇和島	金十銭	宇和島	金二十銭
八幡浜	金十銭	八幡浜	金二十銭
大洲	金十銭	大洲	金二十銭
長浜	金十銭	長浜	金二十銭
松前	金十銭	松前	金二十銭
伊予吉田	金十銭	伊予吉田	金二十銭
宇和	金十銭	宇和	金二十銭
下関	金十銭	下関	金二十銭
長府	金十銭	長府	金二十銭
小月	金十銭	小月	金二十銭
厚狭	金十銭	厚狭	金二十銭
宇部	金十銭	宇部	金二十銭
小野田	金十銭	小野田	金二十銭
徳山	金十銭	徳山	金二十銭
下松	金十銭	下松	金二十銭
光	金十銭	光	金二十銭
室積	金十銭	室積	金二十銭
岩国	金十銭	岩国	金二十銭
柳井	金十銭	柳井	金二十銭
大島	金十銭	大島	金二十銭
久賀	金十銭	久賀	金二十銭
下関	金十銭	下関	金二十銭
長府	金十銭	長府	金二十銭
小月	金十銭	小月	金二十銭
厚狭	金十銭	厚狭	金二十銭
宇部	金十銭	宇部	金二十銭
小野田	金十銭	小野田	金二十銭
徳山	金十銭	徳山	金二十銭
下松	金十銭	下松	金二十銭
光	金十銭	光	金二十銭
室積	金十銭	室積	金二十銭
岩国	金十銭	岩国	金二十銭
柳井	金十銭	柳井	金二十銭
大島	金十銭	大島	金二十銭
久賀	金十銭	久賀	金二十銭

逓信省告示第百七十四號

明治三十年逓信省告示第三百五十七號中新宮郵便局ノ部加入區域ノ内ニ左記ヲ追加シ来三月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治四十五年二月二十九日　　逓信大臣　伯爵　林董

和歌山縣東牟婁郡新宮町字浜元

明朝鮮總督府告示第四十六號

明治四十五年二月十三日左記公立普通學校ノ設立ヲ認可セリ

明治四十五年二月二十四日　　朝鮮總督　伯爵　寺内正毅

名稱	位置
東川公立普通學校	同道東川部内西色内面
兎山公立普通學校	同道兎山部内西色内面
栗川公立普通學校	同道栗川部内西色内面
見岩公立普通學校	同道見岩部内西色内面
同興公立普通學校	同道同興部内西色内面
同興公立普通學校	同道同興部内西色内面
同興公立普通學校	同道同興

△小學校教師用幾何畫法圖ノ部
△小學校教師用幾何畫法說明ノ部

書目ノ上ニ△ヲ附シタルハ文部省ニ於テ未タ修正セサルモノ○ヲ附シタルハ同省ニ於テ修正ニ係ルモノニシテ其ノ他ハ同省修正又ハ新刊ニ係ルモノトス

臺灣總督府告示第十七號

臺灣保安林規則第一條ニ依リ左記ノ通保安林ニ指定ス

明治四十五年二月二十二日　臺灣總督　伯爵佐久間左馬太

保安林種類	廳	里堡	街庄	土名	地番	地目	面積	業主名
水源涵養林	阿緱	嘉祥內	牛稠埔	大崗山	—	—	三三〇・一二〇	未查定地
同	臺南	鹽埕內	鹽埕埔		—	—	二〇・九七〇	同
潮害防備林	同	大竹	中洲	烏松後	族	—	三八・九九三	同
同	同	同	同	同	族後	—	九・三八一	國庫
同	同	同	烏松	同	同	—	二三・四二六	同
同	同	同	中洲	同	同	—	二〇・八四七	同

德島縣告示保編第一號

森林法ニ依リ左記ノ箇所ヲ保安林ニ編入ス

明治四十五年二月二十九日　德島縣知事　渡邊勝三郎

字地番	面積	所有者
德島縣三好郡三野村大字太刀野村		
切谷 一九二七	五三・二五〇	檜　源吉
不動 一八〇三	一〇一〇	田岡　今藏
同 鵜石 二〇〇七ノ四	二八〇九	定金　政太郎
同 二〇〇一ノ一	一九〇〇	佐藤　竹太郎
同大字加茂野宮村		
陸浦 一八一四ノ二	一四二	新名　萬藏
同 一八一四ノ一ノ九	一七六〇三	田村　勇
同 一八一四ノ一ノ一四	四九一六	
同 一八一四ノ一ノ五	七四〇〇	新名　忠太郎
同 一八一四ノ一ノ六	三四二〇	
同 一八一四ノ一ノ七	五八〇八	黒濱　國太郎
同 一八一四ノ一ノ八	大二一〇	篠原　常一
同 一八一四ノ一ノ九	三七二〇	
同 一八一四ノ一ノ一〇	三九一八	中西　藤三郎
同 一八一四ノ一ノ二	五二一七	篠原　常一
同 一八一四ノ一ノ三	六二一七	中西　藤三郎
同 一八一四ノ一ノ二三	三四二四	島津　佐助

北西玉地			
同	一八〇〇ノ二	三七一〇	中西　藤三郎
同	一七九九	一三四〇	諏訪寺
同	一七九ノ六	一九九一五	武田　多平
同	二一四九ノ一ノ七	大六〇五	田村　治三郎
同	二一四九ノ八	五七二〇	篠原　萬平
同	二一四九ノ一ノ九	三八一二	武田　千太郎
同	二一四九ノ一ノ一三	三四〇五	黒濱　國太郎
同	二一四九ノ八〇	八〇〇〇	細井　武七郎
同足代村			
山分	四、五八九ノ四〇一	一、一五一八	三好　熊太郎
同	四、五八九ノ二三九	三六〇六	林　伊三郎
同	四、五八九ノ三二八	二二〇六	戸山　才太
同	四、五八九ノ三七七	三五一二	岡井　治平
同	四、五八九ノ三六三	二四〇三	〔山口名ミうな名行安名小山名〕
同	四、五八九ノ八六ノ二	一七〇〇	阿部　常應
同	四、五八九ノ八六ノ三	一二五一	
同	四、五八九ノ八六ノ四	三九〇〇	木村　羽久藏
同	四、五八九ノ八六ノ三	六八二五	阿部　常藏
同	四、五八九ノ八六ノ七	三〇〇一	木村　羽久藏
同	四、五八九ノ八六ノ七	五〇〇	横關　才藏

同美馬郡穴吹村大字拜村

土佛			
同	二九〇八ノ九 一一五	梶本　谷五郎	
同	三 五七一九ノ九 一九	宮本　龜四郎	
同	四二四ノ九 二四	園見　源藏	
同	八 大四二二ノ九 一一九	野々村　勇助	
同	九 一一五ノ九 二一	園見　源藏	
同	一〇 二〇〇ノ九 一九	佐平	
同	二一四ノ九 二〇	前田　トメ	
同	二二 一九一七ノ九 一〇七	佐野　常太郎	
同	二三 二三一五ノ九 一〇四	佐藤　俊太郎	
同	二三 八二二ノ九 三〇四	陸山　清躬	

正誤

本月二十六日官報號外勅令第十號陸軍服制表中五頁上段刀製式ノ部將官同相當官ノ欄、一方ハ上方同刀帶品質ノ部騎兵科將校ノ欄錄金鋼ノ三字ハ「ニッケル」ノ下ニ續ク〇キノ誤ニ同將校同相當官准士官服制圖中八頁上段大尉同相當官正帽ノ圖陸組ニ摘章ヲ脫ス

本月二十六日官報號外軍令陸第一號陸軍服裝規則中御ハ劍同規則第十一條表中騎章ノ欄署裝法ノ部在服裝規則中劍ハ劍ノ誤ニ〇キノ誤ニ同將校同相當官准士官服制圖中八頁上段大尉同相當官正帽ノ圖陸組ニ摘章ヲ脫ス

本月二十六日官報號外勅令第十三號中「劍帶」ハ「劍ノ帶」ノ誤

本月二十六日官報號外勅令第十號陸軍服制表中四頁上段外套製式ノ部將校ノ欄袖章ノ下ニ續ク〇キノ誤ニ同將校同相當官准士官服制圖中八頁上段大尉同相當官正帽ノ圖陸組ニ摘章ヲ脫ス

本月二十六日官報號外勅令第十二號中劍ハ劍同第十三號中「劍帶」ハ「劍ノ帶」ノ誤

同第十一號中四三頁上段二行「鞍」ハ「鞍嚢」同第十二號中四五頁下段正帶ノ圖ヲ劍帶ノ圖ニ、劍帶ノ圖ヲ正帶ノ圖ニ各其圖面ヲ置替フヘキノ誤モ誤植

○敍任及辭令

明治四十五年二月二十八日

敍正二位	從二位勳一等功一級子爵	西　寬二郎
敍正二位	從二位勳一等男爵	高崎　正風
授旭日桐花大綬章	陸軍大將正二位勳一等功一級子爵	西　寬二郎
授旭日桐花大綬章	樞密顧問官兼御歌所長正二位勳一等男爵	高崎　正風
	臺灣總督府醫學校長兼臺灣總督府醫院長臺灣總督府醫學校教授從六位勳六等	高木　友枝
	臺灣總督府醫學校長兼臺灣總督府醫院長臺灣總督府醫學校教授從四位勳三等	高木　友枝
	臺灣總督府防疫事務官臺灣總督府技師如故	梶本　谷五郎

任臺灣總督府研究所技師兼臺灣總督府醫學校長　兼臺灣總督府醫學校教授　臺灣總督府醫院醫長臺灣總督府醫院醫長

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　藤村　作

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　中泉　行德

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　佐野　靜雄

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　岡田　正之

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　吉田　熊次

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　須藤　憲三

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　中村勝麻呂

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　鹽田　廣重

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　山內不二雄

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　矢野　仁一

敍高等官二等　東京帝國大學文科大學助教授正六位　谷津　直秀

敍高等官五等　東京女子高等師範學校教諭正七位　小池　みつ

敍高等官五等　東京女子高等師範學校教諭正七位　矢作　テツ

敍高等官五等　東京女子高等師範學校教諭正七位　甫守　ふみ

敍高等官五等　東京女子高等師範學校教授正七位　荒木悌二郎

敍高等官五等　東京女子高等師範學校教諭正七位　下田　あげ

敍高等官五等　東京女子高等師範學校教諭正七位　小野　房若

任遞信技師兼遞信管理局技師　遞信管理局技師　通信技師正六位勳五等　鹽谷禎次郎

敍高等官三等　遞信管理局技師　春日藏太郎

任遞信管理局技師　遞信管理局技手陸軍步兵中尉從七位勳六等　池知　正胤

敍高等官七等　遞信管理局技手勳八等　山根　幸知

任遞信技師　遞信管理局技手勳八等　菊池　元一

敍高等官七等　朝鮮總督府府尹從五位勳五等　秋本豐之進

敍高等官三等　朝鮮總督府判事正六位勳六等　氏野德太郎

任朝鮮總督府檢事　杉山　文七

敍高等官四等　清水中四郎

任朝鮮總督府通信技師　高木　友枝

敍高等官六等　新潟縣北浦原郡長從六位勳六等

任新潟縣中頸城郡長　清水中四郎

敍高等官五等

同	四、五八九ノ八八	二〇〇	秋田　義正	同	八　夕	一二一	大塚　增夫
同	四、五八九ノ九九	二一八	三浦　眞鍋	同	二二四	一二一六	藤川　時藏
同	四、五八九ノ九〇	三〇〇	才藏　榮藏	同大字費間村			
同	四、五八九ノ九二	一〇一八	篠原　源平	木來ノ上	三、九五七	三〇二一	原　名
同	四、五八九ノ九三	五〇〇三	篠原　大藏	同	三、九五七	一、四八一七	藤川　楨藏
同	四、五八九ノ九四	三〇〇三	岡　マツノ	同	四、〇五五ノ一一	二九八〇	北內　伊平
同	四、五八九ノ九五	四六〇三	佐藤　秀信	同	四、〇五五ノ一〇	四一二九	佐々木千賀藏
同	四、五八九ノ一	三二〇〇	元木　久次郎	同	四、〇五五ノ三	四七一六	久原　源藏
同	四、五八九ノ五	三二〇九	元木　熊三郎	同	四、〇五五ノ四	四七一六	佐々木　總藏
同	四、五八九ノ七	三七〇三	岡　マツノ	同	四、〇五五ノ五	五六二四	藤本　金三郎
同	四、五八九ノ八	四四〇九	横關　虎平	同	四、〇五五ノ六	四四〇三	藤川　博藏
同	四、五八九ノ一〇一三	六五二四	横關　北乳ノ木道	同	四、〇五五ノ七	九〇六	藤下　半藏
同	四、五八九ノ一〇一四	吹田　多藏	藤川	同	四、〇五五ノ八	二二〇八	藤下　半藏
同	四、五八九ノ一〇一七	四四〇〇	藤川	同	四、〇五五ノ九	一、一七一	福田　武一郎
同	四、五八九ノ一〇一八	二〇〇	秋田　義正	同	四、〇五五ノ一〇	二〇九九	福田　武一郎
同	四、五八九ノ一〇一九	二〇〇	眞鍋　三浦	同	四、〇五五ノ一一	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇二〇	三〇〇	榮藏　才藏	同	四、〇五五ノ一二	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇二一	一〇一八	源平　篠原	同	四、〇五五ノ一三	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇二二	五〇〇三	大藏　篠原	同	四、〇五五ノ一四	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇二三	三〇〇〇	重田　岡	同	四、〇五五ノ一五	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇二四	一〇〇〇	重田　伊太郎	同	四、〇五五ノ一六	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇二五	一〇〇〇	興平　竹內	同	四、〇五五ノ一七	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇二六	一〇〇〇	秋藏　縫藏	同	四、〇五五ノ一八	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇二七	一〇〇〇	丸岡　清十郎	同	四、〇五五ノ一九	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇二八	一〇〇〇	長谷川　幹次郎	同	四、〇五五ノ二〇	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇二九	一〇〇〇	伊平　堂附	同	四、〇五五ノ二一	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇三〇	一〇〇〇	庄三郎　定五郎	同	四、〇五五ノ二二	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇三一	一〇〇〇	文治　直太郎	同	四、〇五五ノ二三	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇三二	一〇〇〇	辰藏　貞八	同	四、〇五五ノ二四	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇三三	一〇〇〇	藤田　茂吉	同	四、〇五五ノ二五	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇三四	一〇〇〇	增原　悅藏	同	四、〇五五ノ二六	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇三五	九六〇〇	新町　名	同	四、〇五五ノ二七	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇三六	一〇〇〇	佐々木利喜藏	同	四、〇五五ノ二八	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇三七	一〇〇〇	佐々木音吉	同	四、〇五五ノ二九	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇三八	一〇〇〇	藤川　六助	同	四、〇五五ノ三〇	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇三九	一〇〇〇	常　名	同	四、〇五五ノ三一	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇四〇	一〇〇〇	小角　伊三郎	同	四、〇五五ノ三二	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇四一	一〇〇〇	板東　彌五郎	同	四、〇五五ノ三三	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇四二	一〇〇〇	藤川　時藏	同	四、〇五五ノ三四	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇四三	一〇〇〇	千賀藏　多藏	同	四、〇五五ノ三五	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇四四	一〇〇〇	吹田　藤川	同	四、〇五五ノ三六	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇四五	一〇〇〇	藤川　ヨシ	同	四、〇五五ノ三七	二〇八三	吉倉　茂作
同	四、五八九ノ一〇四六	一〇〇〇	川原　長吉	同	四、〇五五ノ三八	二〇八三	吉倉　トメ
同	四、五八九ノ一〇四七	一〇〇〇	芭蕉	同	四、〇五五ノ三九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ四〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ四一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ四二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ四三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ四四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ四五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ四六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ四七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ四八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ四九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ五〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ五一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ五二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ五三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ五四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ五五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ五六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ五七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ五八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ五九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ六〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ六一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ六二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ六三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ六四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ六五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ六六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ六七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ六八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ六九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ七〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ七一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ七二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ七三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ七四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ七五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ七六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ七七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ七八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ七九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ八〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ八一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ八二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ八三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ八四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ八五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ八六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ八七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ八八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ八九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ九〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ九一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ九二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ九三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ九四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ九五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ九六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ九七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ九八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ九九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一〇〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一〇一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一〇二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一〇三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一〇四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一〇五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一〇六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一〇七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一〇八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一〇九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一一〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一一一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一一二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一一三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一一四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一一五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一一六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一一七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一一八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一一九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一二〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一二一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一二二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一二三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一二四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一二五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一二六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一二七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一二八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一二九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一三〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一三一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一三二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一三三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一三四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一三五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一三六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一三七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一三八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一三九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一四〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一四一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一四二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一四三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一四四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一四五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一四六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一四七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一四八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一四九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一五〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一五一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一五二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一五三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一五四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一五五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一五六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一五七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一五八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一五九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一六〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一六一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一六二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一六三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一六四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一六五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一六六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一六七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一六八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一六九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一七〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一七一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一七二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一七三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一七四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一七五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一七六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一七七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一七八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一七九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一八〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一八一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一八二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一八三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一八四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一八五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一八六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一八七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一八八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一八九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一九〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一九一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一九二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一九三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一九四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一九五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一九六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一九七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ一九八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ一九九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二〇〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二〇一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二〇二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二〇三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二〇四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二〇五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二〇六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二〇七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二〇八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二〇九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二一〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二一一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二一二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二一三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二一四	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二一五	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二一六	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二一七	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二一八	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二一九	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二二〇	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二二一	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二二二	二〇八三	吉倉　トメ
				同	四、〇五五ノ二二三	二〇八三	吉倉　茂作
				同	四、〇五五ノ二二四

任新潟縣北蒲原郡長　新潟縣中頸城郡長正六位勳五等　阿部　致
敍高等官四等
任新潟縣南魚沼郡長　新潟縣三島郡長從六位勳六等　北見東一郎
敍高等官四等
任新潟縣三島郡長　新潟縣南魚沼郡長正七位　島田　博
敍高等官六等

（靜岡縣引佐郡金指町外五箇村學校組合立引佐農業學校長兼靜岡縣引佐郡金指町外五箇村學校組合立引佐農業學校教諭七位　木村　艮雄）

兼群馬縣立館林農業學校長兼群馬縣立館林農業學校教諭ニ任ス　東京府立第四中學校教諭　大久保常正
東京府立第四中學校教諭ニ任ス　愛知縣立農林學校教諭　內藤　乾藏
愛知縣立農林學校教諭ニ任ス

希臘國ヘ出張被仰付　東京帝國大學文科大學教授文學博士　高楠順次郎
歸朝被仰付　海軍造船少監　鈴木　四郎
英國ヘ出張被仰付　海軍造船少監　白石保太郎
兼本官專任遞信管理局技師（以上十二月二十八日內閣）　遞信技師兼遞信管理局技師　石川　弘三
（各通）　陸軍大將從二位勳一等功一級子爵　西寬二郎
樞密顧問官兼御歌所長從二位勳一等男爵　高崎　正風
特旨ヲ以テ位一級被進

參謀本部參謀演習旅行實視トシテ同演習地ヘ　侍從武官男爵　山根　一貫
兼本職被仰付（以上十二月二十八日陸軍省）　敍叙位（以上十二月二十八日宮內省）
兼本職補吾妻主計長　神奈川縣技師　明石　東
兼本職補八雲主計長　山形縣技師　芦野　泰治
兼本職補朝日主計長　陸軍騎兵少佐　遠山　虎雄
兼本職補騎兵第八聯隊附　陸軍工兵少佐　今村　明彥
兼本職補騎兵第八聯隊中隊長　陸軍砲兵大尉　長谷川正道
兼本職補騎兵第八聯隊附　陸軍一等主計　橋本　春吉
休職被仰付（以上十二月二十八日陸軍省）　（騎兵第八聯隊附）　（騎兵第八聯隊中隊長）
兼補海軍軍醫學校教官　海軍省醫務局局員海軍軍醫少監　小島　政治
兼本職補吾妻主計長　三笠主計長海軍主計中監　平山慶次郎
兼本職補八雲主計長　吾妻主計長海軍主計少監　朝山林之助
兼本職補朝日主計長　津輕主計長海軍主計少監　西　新次郎
補津輕主計長　海軍主計少監　中村　尹男
兼本職　朝日主計長海軍主計少監　田邊　密藏
待命被仰付（但儘須賀ニ滯在スヘシ）　海軍主計少監　田邊　密藏

（各通）

陸軍無線電信調查委員ヲ命ス　歩兵第二十五聯隊附陸軍步兵中尉　武川　勇
參謀本部附勤務ヲ免ス　歩兵第六十二聯隊附陸軍步兵中尉　高木　繁
兼本職補騎兵第八聯隊中隊長　（騎兵第八聯隊附）　笠原平太郎
兼本職補騎兵第八聯隊附　（騎兵第八聯隊中隊長）　清水　勉
（騎兵第八聯隊大尉）
休職被仰付（以上十二月二十八日陸軍省）　（陸軍步兵中尉）　齋藤　孝助
（陸軍砲兵大尉）
（陸軍步兵中尉）
兼補海軍軍醫學校教官　海軍省醫務局局員海軍軍醫少監　小島　政治
兼本職補吾妻主計長　三笠主計長海軍主計中監　平山慶次郎
兼本職補八雲主計長　吾妻主計長海軍主計少監　朝山林之助
兼本職補朝日主計長　津輕主計長海軍主計少監　西　新次郎
補津輕主計長　海軍主計少監　中村　尹男
兼本職　朝日主計長海軍主計少監　田邊　密藏
待命被仰付（但儘須賀ニ滯在スヘシ）　海軍主計少監　田邊　密藏

陸軍無線電信調查委員ヲ命ス　歩兵第二十五聯隊附陸軍步兵中尉　武川　勇
參謀本部附勤務ヲ免ス　歩兵第六十二聯隊附陸軍步兵中尉　高木　繁
兼本職補騎兵第八聯隊中隊長　（騎兵第八聯隊附）　笠原平太郎
兼本職補騎兵第八聯隊附　（騎兵第八聯隊中隊長）　清水　勉
（騎兵第八聯隊大尉）
休職被仰付（以上十二月二十八日陸軍省）　（陸軍步兵中尉）　齋藤　孝助
（陸軍砲兵大尉）
（陸軍步兵中尉）
兼補海軍軍醫學校教官　海軍省醫務局局員海軍軍醫少監　小島　政治
兼本職補吾妻主計長　三笠主計長海軍主計中監　平山慶次郎
兼本職補朝日主計長　津輕主計長海軍主計少監　西　新次郎
補津輕主計長　海軍主計少監　中村　尹男
兼本職　朝日主計長海軍主計少監　田邊　密藏
待命被仰付（但儘須賀ニ滯在スヘシ）　海軍主計少監　田邊　密藏

參謀本部參謀演習旅行實視トシテ同演習地ヘ　侍從武官男爵　山根　一貫
（敍叙位（以上十二月二十八日宮內省）
十級俸下賜（十二月二十八日內務省）　神奈川縣技師　明石　東
十一級俸下賜（十二月二十八日同）　山形縣技師　芦野　泰治
特旨ヲ以テ位一級被進　陸軍騎兵少佐　遠山　虎雄
陸軍工兵少佐　今村　明彥
陸軍砲兵大尉　長谷川正道
陸軍一等主計　橋本　春吉

（各通）

陸軍無線電信調查委員ヲ命ス　歩兵第二十五聯隊附陸軍步兵中尉　武川　勇
參謀本部附勤務ヲ免ス　歩兵第六十二聯隊附陸軍步兵中尉　高木　繁
兼本職補騎兵第八聯隊中隊長　（騎兵第八聯隊附）　笠原平太郎
兼本職補騎兵第八聯隊附　（騎兵第八聯隊中隊長）　清水　勉
（騎兵第八聯隊大尉）
休職被仰付（以上十二月二十八日陸軍省）　（陸軍步兵中尉）　齋藤　孝助
（陸軍砲兵大尉）
（陸軍步兵中尉）
兼補海軍軍醫學校教官　海軍省醫務局局員海軍軍醫少監　小島　政治
兼本職補吾妻主計長　三笠主計長海軍主計中監　平山慶次郎
兼本職補八雲主計長　吾妻主計長海軍主計少監　朝山林之助
兼本職補朝日主計長　津輕主計長海軍主計少監　西　新次郎
補津輕主計長　海軍主計少監　中村　尹男
兼本職　朝日主計長海軍主計少監　田邊　密藏
待命被仰付（但儘須賀ニ滯在スヘシ）　海軍主計少監　田邊　密藏

兼本職補第二艦隊主計長　佐世保海軍工廠造船部員海軍主計少監　上田　範治
敍高等官四等
任新潟縣南魚沼郡長　新潟縣三島郡長從六位勳六等　北見東一郎
敍高等官四等
任新潟縣三島郡長　新潟縣南魚沼郡長正七位　島田　博
敍高等官六等

（靜岡縣引佐郡金指町外五箇村學校組合立引佐農業學校長兼靜岡縣引佐郡金指町外五箇村學校組合立引佐農業學校教諭七位　木村　艮雄）

兼群馬縣立館林農業學校長兼群馬縣立館林農業學校教諭ニ任ス　東京府立第四中學校教諭　大久保常正
東京府立第四中學校教諭ニ任ス　愛知縣立農林學校教諭　內藤　乾藏
愛知縣立農林學校教諭ニ任ス

希臘國ヘ出張被仰付　東京帝國大學文科大學教授文學博士　高楠順次郎
歸朝被仰付　海軍造船少監　鈴木　四郎
英國ヘ出張被仰付　海軍造船少監　白石保太郎
兼本官專任遞信管理局技師（以上十二月二十八日內閣）　遞信技師兼遞信管理局技師　石川　弘三
（各通）　陸軍大將從二位勳一等功一級子爵　西寬二郎
樞密顧問官兼御歌所長從二位勳一等男爵　高崎　正風
特旨ヲ以テ位一級被進

參謀本部參謀演習旅行實視トシテ同演習地ヘ　侍從武官男爵　山根　一貫
（敍叙位（以上十二月二十八日宮內省）
十級俸下賜（十二月二十八日內務省）　神奈川縣技師　明石　東
十一級俸下賜（十二月二十八日同）　山形縣技師　芦野　泰治
特旨ヲ以テ位一級被進　陸軍騎兵少佐　遠山　虎雄
陸軍工兵少佐　今村　明彥
陸軍砲兵大尉　長谷川正道
陸軍一等主計　橋本　春吉

（各通）

陸軍無線電信調查委員ヲ命ス　歩兵第二十五聯隊附陸軍步兵中尉　武川　勇
參謀本部附勤務ヲ免ス　歩兵第六十二聯隊附陸軍步兵中尉　高木　繁
兼本職補騎兵第八聯隊中隊長　（騎兵第八聯隊附）　笠原平太郎
兼本職補騎兵第八聯隊附　（騎兵第八聯隊中隊長）　清水　勉
（騎兵第八聯隊大尉）
休職被仰付（以上十二月二十八日陸軍省）　（陸軍步兵中尉）　齋藤　孝助
（陸軍砲兵大尉）
（陸軍步兵中尉）
兼補海軍軍醫學校教官　海軍省醫務局局員海軍軍醫少監　小島　政治
兼本職補吾妻主計長　三笠主計長海軍主計中監　平山慶次郎
兼本職補八雲主計長　吾妻主計長海軍主計少監　朝山林之助
兼本職補朝日主計長　津輕主計長海軍主計少監　西　新次郎
補津輕主計長　海軍主計少監　中村　尹男
兼本職　朝日主計長海軍主計少監　田邊　密藏
待命被仰付（但儘須賀ニ滯在スヘシ）　海軍主計少監　田邊　密藏

兼本職第二艦隊主計長　佐世保海軍工廠造船部員海軍主計少監　上田　範治
兼本職補造船監督官（以上十二月二十八日海軍省）　岐阜地方裁判所判事判事　裴浦　清
（各通）　甲府地方裁判所判事判事　恩地　正文
豫備掛ヲ免ス（十二月二十八日司法省）
十二級俸下賜

青森大林區署長心得ヲ命ス（以上十二月二十七日農商務省）　林務技師　沼澤　陸太
左ノ遞信管理局區內及臨機橫濱ヘ出張ヲ命ス　林務技師　沼澤　陸太
大阪　長崎　神戶　廣島　熊本　遞信技師　石川留三郎
牛莊郵便局長ヲ命ス　遞信技師　兒島牛五郎
東京中央郵便局外國郵便課長ヲ命ス
通信局外信課兼務ヲ命ス
神戶郵便局外國郵便課長ヲ命ス
神戶三宮郵便局長心得兼務ヲ命ス
廣島ヨリ上京ヲ命ス（十二月二十九日臨時總督府）　臺灣總督府事務官　手島兵次郎
歐洲ヨリ歸府ノ途次上京ヲ命ス（十二月二十九日同）　臺灣總督府技師　高木　友枝
民政部通信局電務課兼務ヲ命ス　臺灣總督府技師　濱野彌四郎
補臺中地方法院判官　（臺南地方法院判官兼臺南地方法院檢察官）　安藤第二郎
官國幣社神職尋常試驗委員長ヲ命ス　臺灣總督府警視總長　龜山理平太
（各通）　臺灣總督府警視總長　二股　卓爾
官國幣社神職尋常試驗委員ヲ命ス　臺灣總督府參事官　三村　三平
（各通）　臺灣總督府參事官　楠　正秋
臺灣總督府參事官　山口　透
臺灣神社宮司
社司社掌試驗委員ヲ命ス（以上十二月二日同）　（臺灣總督府技師）　藤根　吉春
嘉義廳農會開催養豚品評會審查委員長ヲ命ス　（臺灣總督府技師）　岡田　寬治
上京ヲ命ス　臺灣總督府技師　濱野彌四郎
臺中廳技師　久保　隆三
沖繩縣ヘ出張ノ序ヲ以テ大阪廣島及兵庫縣下ヘ出張ヲ命ス（以上十二月二日同）　齋藤　孝助
本俸下賜　大阪府池田師範學校教諭　二股　卓爾
大阪府池田師範學校教諭　坂井　吉助
十級俸下賜（但當分年俸七百五拾圓下賜）（以上十二月二日大阪府）　市立仙臺商業學校教諭　篠原　泰助
十級俸下賜（但七百十四圓支給）（以上十二月二日宮城縣）　市立仙臺商業學校教諭　飯室泰四郎

年俸千參百七拾圓下賜　農手縣農事試驗場技師　河北　一郎
十一級俸下賜（但當分六百六拾圓）（以上十二月二日農手縣）　農手縣立水產學校教諭陸軍砲兵少尉正八位　芳賀奈七郎

○宮廷錄事

○謁見竝御陪食　本邦駐箚獨逸國特命全權大使伯爵フォンレックス發ニ臨暇歸國中ノ處今般歸任ニ付キ敬意ヲ表スルタメ昨二十八日午前十一時五十分參內　天皇陛下ニ謁見仰付ケラレ續テ正午十二時　天皇陛下午餐御催ニ付キ貞愛親王、恆久王兩殿下ヲ召サセラレ前記大使竝ニ渡邊宮內大臣、內田外務大臣、戶田式部長官、侍從職御用掛公爵九條道實、長崎式部官、山內式部官、侍從武官上田兵吉ヘ御陪食仰付ケラレタリ

○彙報

○官廳事項

○日佛通商航海條約ニ佛國殖民地加入ノ件　昨四十四年八月十九日日佛通商航海條約ノ調印ト同時ニ佛國殖民地カ右條約ニ加入ノ件ニ關シ左ノ通公文ノ交換アリタリ

來翰

以書翰啓上致候陳者本大臣ハ左ノ佛國殖民地カ本日調印ノ日佛通商航海條約ニ加入スルコトヲ佛國西國政府ニ於テ聲明スル旨該條約第十九條ノ規定ニ從ヒ本日附貴翰ヲ以テ閣下ヨリ御通知相成候儀致候

「ギアヌ」「佛領西部亞弗利加」「佛領赤道亞弗利加」「マルチニック」「サンピエール、エ、ミクロン」「ヌーヴェル、カレドニー」「佛領印度」「ソマリ沿岸」「レウニオン」「マダガスカル」及「グアドループ」

本大臣ハ閣下カ帝國政府ノ名ニ於テ本通知ヲ領セラレムコトヲ希望致候

本大臣ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

千九百十一年八月十九日

ジー、ド、セルヴ

日本國特命全權大使男爵栗野慎一郎閣下

復翰

以書翰啓上致候陳者左ノ佛國殖民地カ本日調印ノ日佛通商航海條約ニ加入スルコトヲ佛蘭西國政府ニ於テ聲明スル旨該條約第十九條ノ規定ニ從ヒ本日附貴翰ヲ以テ閣下ヨリ御通知相成候儀致候

「ギアヌ」「佛領西部亞弗利加」「佛領赤道亞弗利加」「マルチニック」「サンピエール、エ、ミクロン」「ヌーヴェル、カレドニー」「佛領印度」「ソマリ沿岸」「レウニオン」「マダガスカル」及「グアドループ」

本使ハ帝國政府ノ名ニ於テ右佛蘭西國政府ノ通知ヲ領スルノ光榮ヲ有シ候

本使ハ茲ニ重テ閣下ニ向テ敬意ヲ表シ候敬具

明治四十四年八月十九日

外務大臣ジー、ド、セルヴ閣下

新任在本邦濠洲獨逸國特命全權代理大使ニツキ同日附ヲ以テ通知アリタリ

○官吏懲罰　本月二十三日樞密院議ヲ經臨時代理大使ニツキ同日附ヲ以テ通知アリタリ

豐三室戶敬光ハ昨二十八日出發京都府及兵庫縣下ヘ出張セリ

○官吏懲罰　豐ニ上京ノ帝室林野管理局名古屋支廳長　磯山盛昌ハ六月二十四日出發歸任ノ內匠寮主事

○産業

○汽船

○漁業取締ニ関スル許可證ヲ付シタル左ノ如シ（農商務省第三號汽船トロール漁業取締規則ニ依リ許可）

許可年月日	許可番號	船名	船舶番號又ハ名称	住所	氏名
明治四十五年二月二十六日	第九十七號	第一旭丸	第一旭丸	東京市芝區新橋一丁目十番地	木原善四郎

○漁業取締ニ関スル許可證ヲ付シタル左ノ如シ（農商務省第三號汽船トロール漁業取締規則ニ依リ許可）

許可年月日	許可番號	船名	船舶番號又ハ名称	住所	氏名
明治四十五年二月二十六日	第九十八號	第二旭丸	第二旭丸	東京市芝區新橋一丁目十番地	木原善四郎

○漁業取締ニ関スル許可證ヲ付シタル左ノ如シ（農商務省第三號汽船トロール漁業取締規則ニ依リ許可）

許可年月日	許可番號	船名	船舶番號又ハ名称	住所	氏名
明治四十五年二月二十六日	第九十九號	第三旭丸	第三旭丸	東京市芝區新橋一丁目十番地	木原善四郎

○通運

○鐵道運輸

○鐵道運輸開始ノ左ノ驛ニ於テ小荷物ノ取扱ヲ開始シタリ（鐵道院）

驛名	開始年月日
尾西鐵道株式會社線六輪驛	明治四十五年二月二十六日
上間ニ設置シタル九頭龍停車場	同

○船舶出入報告

○船舶出入報告ノ左ノ船舶ハ去月中ニ於テ四開港ニ入港シタリ（濱港規則第十六條ニ依リ出入報告ス）

船名	噸數	國籍	種類	入港地	入港年月日	出港地	出港年月日
第一旭丸	一、〇〇〇	日本	汽船	神戸	明治四十五年二月二十六日	長崎	明治四十五年二月二十六日
第二旭丸	一、〇〇〇	日本	汽船	長崎	明治四十五年二月二十六日	神戸	明治四十五年二月二十六日
第三旭丸	一、〇〇〇	日本	汽船	神戸	明治四十五年二月二十六日	横濱	明治四十五年二月二十六日

○雜事

○移民業務代理許可

○移民業務代理許可

移民取扱人左ノ者ニ移民ニ關スル業務ヲ代理スルコトヲ許可ス（移民保護法第十條ニ依リ許可）

本籍	住所	氏名
東京府東京市日本橋區通三丁目十番地	同府同市同區同町十番地	高橋是清

○船舶職員免許

○船舶職員免許（船舶職員令第十條ニ依リ免許）

免許年月日	免許番號	氏名	職名
明治四十五年二月二十六日	第一號	木原善四郎	甲種一等運轉士
同	第二號	木原善四郎	甲種一等機關士

○船舶職員免許證再交付

○船舶職員免許證再交付（船舶職員令第十條ニ依リ再交付）

再交付年月日	番號	氏名	職名
明治四十五年二月二十六日	第一號	木原善四郎	甲種一等運轉士
同	第二號	木原善四郎	甲種一等機關士

○帝國議會

○貴族院

○報告書提出

議院法第五十四條ニ依リ報告書ヲ提出セリ

○請願委員會報告書提出

請願委員長ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

○書類配付

本日左ノ書類ヲ配付ス（文書課）

○委員會開會

今二十九日委員會ヲ左ノ如シ開會ス（衆議院）

委員會名	開會時刻
決算委員第一分科會	午前十時
同第二分科會	同
同第三分科會	同
同第四分科會	同
同第五分科會	同
請願委員第一分科會	同
同第二分科會	同
同第三分科會	同
同第四分科會	同
同第五分科會	同

○委員會

今二十九日開會ノ委員會左ノ如シ（衆議院）

委員會名	開會時刻
鐵道敷設法中改正法律案特別委員會	午後二時三十分
鐵道敷設法中改正法律案委員長ヨリ左ノ事項ニ關スル法律案ヲ引特	同

○議事日程

議事日程　今二十九日ノ分

明治四十五年二月二十九日（木曜日）

午前十時開議

第一　午後二時開議

第一讀會

第一　拘留科料ニ關スル裁判法案（衆議院提出）

第二　國籍法中改正法律案（衆議院提出）

第三　高岡築港調査ニ關スル建議案（衆議院提出）

第四　鐵道速成ニ關スル建議案（衆議院提出）

第五　農業金融ニ關スル建議案（衆議院提出）

第六　鐵道敷設ニ關スル建議案（衆議院提出）

○衆議院

○議案提出

昨二十八日議員ヨリ左ノ議案ヲ提出セリ

○小名濱港便鐵道建設ニ關スル建議案（阿武郡外一郡）

○貿問書提出

昨二十八日議員ヨリ左ノ質問主意書ヲ提出セリ

○土地接收ニ關スル件（千葉縣）

○神社併合廢止ニ關スル件（和歌山縣）

○常任委員補闕選擧

昨二十八日決算委員四男（第七部）ノ補闕ニ當選セリ

○源二郎當選無効ニ關スル件

本院ハ議員小泉源二郎當選無効ノ訴訟ヲ受理シ有田委員ヲ調査ノ爲メ派遣セリ

○委員長及理事辭任

昨二十八日委員長及理事辭任ノ件ヲ議題トシテ諮ヒタルニ異議ナシト認メ其ノ通リ決定セリ

○委員會

今二十九日開會ノ委員會左ノ如シ

委員會名	開會時刻
衆議院議員選擧法中改正法律案委員會	同第五分科會
同第一分科會	同第一分科會
同第二分科會	同第二分科會
同第三分科會	同第三分科會
同第四分科會	同第四分科會

以上午前十時

第8606号　本文

本文

第8106号

同	京都帝國大學醫科大學醫學科卒業者	都府縣平民	清野　謙次
同	一九七七		京都府醫
同	千葉醫學專門學校醫學科卒業者	秋田縣平民	清野　謙次
同	二九七三		京都府醫
同	仙臺醫學專門學校醫學科卒業者	保坂　鐵藏	
同	二九七三		埼玉縣千葉郡役所、千葉町役場
同	二九七八	墨須　榎本	結緣
同	二九七九	政治	新六郎
同	岡山醫學專門學校醫學科卒業者		岡山縣平民
同	二九八〇	結緣	立彦
同	二九八一	新六郎	岡山縣邑久郡役所
同	二九八二	今田　立彦	
同	金澤醫學專門學校醫學科卒業者	富山縣平民	
同	二九八三	米多　外男	富山縣下新川郡役所、魚津町役場
同	私立慶應義塾醫學科卒業者	富山縣平民	岡山縣平民
同	二九八四	白石　三原	岡山縣赤磐郡役所
同	二九八五	放生　陵一	福岡縣平民
同	二九八六	宮崎縣平民	福岡縣赤磐郡役所
同	二九八七		宮崎縣東諸縣郡役所、木崎村役場
同	二九八八	德島縣平民	德島縣、那賀郡役所、富岡町役場
同	二九八九	新潟縣平民	東京府、東京市本鄉區役所
同	二九九〇	小林　虎平	東京府、東京市淺草區役所
同	二九九一	宇野　善見	長野縣平民
同	二九九二	服部　時次	長野縣下伊那郡役所、會地村役場
同	二九九三	金井　又美	福岡縣平民
同	二九九四	兵庫縣平民	福岡縣浮羽郡役所
同	二九九五	後藤　鼎二	長野縣平民
同	二九九六	新潟縣士族	長野縣小縣郡役所、鎗居村役場
同	二九九七	岡田　錦作	東京府、東京市下谷區役所
同	二九九八		
同	二九九九		
同	三〇〇〇		
同	三〇〇一		
同	三〇〇二		
同	三〇〇三		

○藥劑師名簿登錄

藥品營業竝藥品取扱規則第五條ニ依リ藥劑師名簿ニ登錄シタル者左ノ如シ

明治四十五年二月

登錄年月日	登錄番號	族籍	氏名	申請書經由官公署
藥劑師試驗合格者	四六、二二九	三重縣平民	諸戸　鍬三郎	三重縣、桑名郡役所、長島村役場
同	四六二三	諸戸　義夫	大阪府、大阪市東區役所	
同	四六二四	熊田　佳山	福岡縣平民	福岡縣、糸島郡役所、小富士村役場
同	四六二五	直江　清作	北海道平民	北海道廳、小樽區役所
同	四六二六			

○證狀無效

第三六號　稅關監吏證票

右紛失ノ旨届出ニ依リ無效トス

明治四十五年二月　　橫濱稅關

○船舶職員試驗

大阪遞信管理局海事部伏木出張所ニ於テ來ル三月十一日左記ノ種類ニ限リ臨時船舶職員試驗ヲ執行ス

明治四十五年二月　　遞信省

乙種二等運轉士　　丙種運轉士

○免狀遺失

第四六七四號　乙種三等機關士免狀

右遺失ノ旨届出アリ

明治四十五年二月　　廣島縣

○購買入札

一精製麥
二百石

右購買スル札望者ハ來ル三月十三日マテ（執務時間内）ニ當部ニ出頭入札心得書、契約書案及標本等熟覽ノ上來ル三月十四日午前十時限入札ス（シ）即時開札ス

此契約ハ東部鐵道管理局長山口準之助擔任ス

明治四十五年二月二十九日　　東部鐵道管理局

一眞鍮厚外十九點
一表題車衣外二百二十八點　下關渡　來ル三月十五日計理課下關倉庫ニ於テ入札執行

以上入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右賣却ス買受望ノ者ハ當局計理課下關倉庫ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上當日午前十一時限入札書ヲ同所ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ西部鐵道管理局長谷川謹介擔任ス

明治四十五年二月二十九日　　西部鐵道管理局

第二號　綿麻布（混合厚ク含ム）　第三號　各種革屑

以上本年四月ヨリ同九月マデ當廠ニ於テ賣却スル分

以上入札保證金各自見積代金百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右賣却ス買受望ノ者ハ來ル三月十四日マデニ當廠ニ就キ入札心得書、契約書案及現品等熟覽ノ上同十五日午前十時限當廠ニ入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ陸軍被服本廠長矢野正朝擔任ス

明治四十五年二月二十九日　　陸軍被服本廠

一白明治四十五年四月一日至同十六年三月三十一日佐世保海兵團、佐世保水雷團、佐世保海軍病院竝ニ在港艦艇ノ燒飯生鮮骨麥竝ニ雜品

入札保證金百圓以上

右賣却ス買受望ノ者ハ當部第二課ニ就キ契約書案等承合ノ上來ル三月十五日午前十一時限入札スヘシ

即時當選ニ於テ開札ス

此契約ハ佐世保海軍經理部長秋山藤吉擔任ス

明治四十五年二月二十九日　　佐世保海軍經理部

一錆鐵線外九點

右賣却ス買受望ノ者ハ今二十九日ヨリ來ル三月十五日マデ（執務時間内）ニ當局及靜岡郵便局ニ就キ入札人心得書及契約書案竝ニ入札書差出スヘシ　即時開札ス但シ現品ハ今二十九日ヨリ來ル三月十五日マデ（執務時間内）靜岡局外十二箇所ニ於テ縱覽セシム

此契約ハ橫濱遞信管理局長河合鑿擔任ス

明治四十五年二月二十九日　　橫濱遞信管理局

○商業登記

株式會社臺灣銀行登記事項中左ノ通變更ス

一營業所　臺北臨濟護國禪寺內橋街一番戶林樹蔭ハ明治四十五年二月五日辭任セリ

右明治四十五年二月十三日管轄

在滿國廈門帝國領事館

○購買入札公告取消

本月十四日本欄内掲載當廠硝丸運搬箱二千個ノ購買入札公告ハ取消ス

明治四十五年二月二十九日　　東京陸軍兵器支廠

○入札拂下

一古制服類　　青森渡　入札保證金各自見積代價百分ノ五以上（圓未滿切上ク）

右賣却ス買受望ノ者ハ當局青森出納事務所ニ就キ入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル三月十五日午前十一時限入札書ヲ同所ニ差出スヘシ即時開札ス

此契約ハ東部鐵道管理局長山口準之助擔任ス

明治四十五年二月二十九日　　東部鐵道管理局

新編女子文典
明治四十五年二月二十五日訂正發行
著作者　栃木縣平民　屋代　熊太郎
發行者　東京府東京市日本橋區鐵砲町三番地　合資會社六盟館

右孰モ明治四十五年二月十八日檢定ス

明治四十五年二月　　文部省

○師範學校中學校高等女學校教員檢定本試驗合格者

本月二十二、二十四、二十六、二十七日施行ノ國語及漢文科試驗ニ合格セシ者ノ族籍、氏名等左ノ如シ但シ氏名ノ上ニ※印アルハ女子師範學校、師範學校女子部、高等女學校ノミノ教員志願者ナリ

明治四十五年二月　　教員檢定委員會會長　理學博士山川健次郎

○檢定教科用圖書

師範學校教育科用

修正教育科教科書	教育篇　全一册	定價金七十錢
訂正	明治四十四年十二月五日訂正三版發行	
著作者	滋賀縣平民　竹內　喜之助	發行者　東京府東京市日本橋區本銀町三丁目二番地　株式會社啓成社
著作者	千葉縣平民　山本　德太郎	
右明治四十四年三月二十三日檢定濟ノ處修正發行セリ依テ更ニ明治四十五年二月二十八日檢定ス		
中學校教科書	全一册	定價金七十錢
中國文教科書	明治四十五年二月二十六日修正六版發行	
著作者	東京府士族　吉田　彌平	發行者　東京府東京市神田區裏神保町六番地　東京府平民　上原　才一郎
右明治四十四年二月二日檢定濟ノ處修正發行セリ依テ更ニ明治四十五年二月二十八日檢定ス		
中等最近日本地理教科書	全一册	定價金六十錢
著作者	明治四十五年二月二十四日修正再版發行	
編纂者	三省堂編輯所	發行者　東京府東京市神田區裏神保町一番地　靜岡縣士族　龜井　忠一
中等最近日本地理教科書	全一册	定價金六十錢
著作者	明治四十五年二月二十四日修正再版發行	
編纂者	三省堂編輯所	發行者　東京府東京市神田區裏神保町一番地　靜岡縣士族　龜井　忠一
中等現代文典教科書	全二册	定價各金二十二錢
著作者	明治四十五年二月二十五日訂正再版發行	
著作者	福井縣士族　芳賀　矢一	發行者　東京府東京市神田區裏神保町九番地　合資會社富山房
新定女子修身書教科書	全四册	定價各金二十二錢
著作者	明治四十五年二月二十三日訂正再版發行	
著作者	鹿島縣士族　下田　次郎	發行者　東京府東京市小石川區小日向水道町七十三番地　東京府平民　西野　虎吉
高等女學校地理教科書	全一册	定價金五十五錢
女子最近日本地理教科書	明治四十五年二月二十四日修正再版發行	
編纂者	三省堂編輯所	發行者　東京府東京市神田區裏神保町一番地　靜岡縣士族　龜井　忠一
新編女子文典	全二册	定價各金十八錢
著作者	明治四十五年二月二十五日訂正發行	
	栃木縣平民　屋代　熊太郎	發行者　東京府東京市日本橋區鐵砲町三番地　合資會社六盟館

○購買入札公告

一郵便貯金案內入札保證金各自見積價格百分ノ五以上（圓未滿切上ク）入札者ハ二年以來其營業ニ從事シ且ツ明治四十一年五月遞信省令第二十四號ノ資格ヲ備フル要ス

右購買スル札望者ハ入札前日マテニ當局監理部會計課ニ就キ見本、仕樣書、入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上當日午前十時限入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ第九師團經理部長河內曉擔任ス

明治四十五年二月二十九日　　第九師團經理部

○賣却入札公告

一郵便貯金案內　十万部
入札保證金各自見積價格百分ノ五以上（圓未滿切上ク）入札者ハ二年以來其營業ニ從事シ且ツ明治四十一年五月遞信省令第二十四號ノ資格ヲ備フル要ス

右購買スル札望者ハ入札前日マテニ當局監理部會計課ニ就キ見本、仕樣書、入札人心得書及契約書案等熟覽ノ上來ル三月十三日午前十時限入札スヘシ即時開札ス

此契約ハ第九師團經理部長河內曉擔任ス

明治四十五年二月二十九日　　第九師團經理部

○賣却入札公告

一號「ケースマイカ」外十四點
二號「テーブル」用燈芯外三十點

以上入札保證金各號見積額百分ノ五以上（圓未滿切上ク）入札者ハ滿二年以來其營業ニ從事シ且明治四十一年五月遞信省令第二十四號ノ資格ヲ備フル要ス

右購買スル札望ノ者ハ來ル三月十四日マテニ當局經理部會計課ニ就キ入札人心得書及契約書案竝ニ入札書差出スヘシ即時開札ス但シ現品ハ今二十九日ヨリ來ル三月十五日マテ（執務時間内）ニ當局經理部會計課ニ於テ縱覽セシム

此契約ハ橫濱遞信管理局長河合鑿擔任ス

明治四十五年二月二十九日　　橫濱遞信管理局

○賣却入札公告

一號「ケーブル」用燈芯外三十點

以上入札保證金各號見積額百分ノ五以上（圓未滿切上ク）入札者ハ滿二年以來其營業ニ從事シ且明治四十一年五月遞信省令第二十四號ノ資格ヲ備フル要ス

右購買スル札望ノ者ハ來ル三月十四日マテニ當局經理部會計課ニ就キ入札人心得書及契約書案竝ニ入札書差出スヘシ即時開札ス但シ現品ハ今二十九日ヨリ來ル三月十五日マテ（執務時間内）ニ當局經理部會計課ニ於テ縱覽セシム

此契約ハ橫濱遞信管理局長河合鑿擔任ス

明治四十五年二月二十九日　　橫濱遞信管理局

許可 8606 本文

○漁業組合登記

一　名稱　三崎漁業組合　二　事務所　愛媛縣西宇和郡三崎村大字三崎千九百六十七番地　三　目的　漁業權及入漁權ヲ取得シ又ハ漁業權ヲ貸付ケ又ハ組合員ノ漁業ニ關スル共同施設ヲ爲ス　四　設立許可ノ年月日　明治三十六年七月一日　地區　愛媛縣西宇和郡三崎村大字三崎同大字高浦同大字佐田同大字大佐田同大字井野浦六　理事ノ氏名住所　愛媛縣西宇和郡三崎村大字三崎千七百四十九番地門田實吉　同縣同郡同村大字大佐田百二十番地宇都宮勝大　同縣同郡同村大字井野浦四十四番地池上萬一郎　監事ノ氏名住所　愛媛縣西宇和郡三崎村大字三崎二十六番地高月三郎　同縣同郡同村大字佐田甲六百九十八番地山本庄太郎　同縣同郡同村大字井野浦五十七番地池田實三郎　八　存立時期　無期限

右明治四十五年一月二十九日登記

八幡濱區裁判所三崎出張所

○相續財產管理人選任

本籍地栃木縣上都賀郡西大芦村大字草久千七百七十六番地　戸主平民農　最後ノ住所右同上　被相續人高橋儀三郎　明治十三年十一月一日栃木縣上都賀郡如蘇村大字上久我ニ於テ出生　明治四十五年一月七日栃木縣上都賀郡須賀川村大字須賀川ニ於テ死亡　栃木縣宇都宮市旭町二丁目百九十二番地平民鐘護士　相續財產管理人前島信次郎　當區裁判所ハ利害關係人栃木縣上都賀郡西大芦村大字草久千百二十三番地鈴木專吉ノ請求ニ因リ明治四十五年二月二十一日前記前島信次郎ヲ高橋儀三郎ノ相續財產管理人ニ選任シタリ　明治四十五年二月二十六日

宇都宮區裁判所

○準禁治產宣告

東京市小石川區指ヶ谷町三十五番地櫛田鏡三郎方平民製本職便用人　櫛田　貢朔

右ニ對シ東京市神田區駿河臺紺梅河岸十六號地櫛田正中方　櫛田万子ノ申立ニ因リ當區裁判所ハ明治四十五年二月二十一日準禁治產ノ宣告ヲ爲シタリ　明治二十六年一月十八日生　明治四十五年二月二十八日

東京區裁判所

判事　河西悌太郎

兵庫縣揖保郡揖保村ノ內門前村五十一番屋敷平民　柳生　吉一

右ノ者ニ對シ父六右衛門ノ申立ニ因リ浪費者ト認メ準禁治產ノ宣告ス　明治四十五年二月二十八日

龍野區裁判所

判事　尾上勁

○公示催告

東京市麹町區山下町一丁目一番地　申立人　日本勤業銀行支配人　代表者　中村千太郎

一割增金附勤業債券額面金二十圓二通

但第三十八回勤業債券二ノ組第七四五二番第七四五三番、何レモ明治四十五年七月以降利札付

右債券ニ付キ前記申立人ヨリ公示催告ノ申立ヲ爲シタルニヨリ　其所持人ハ明治四十五年九月十八日午前九時迄ニ權利ヲ屆出テ且ツ債券ヲ提出スヘシ　若シ右期日迄ニ屆出及提出ヲ爲サヽルニ於テハ其無效ノ宣言スルコトアルヘシ　明治四十五年二月十九日

東京區裁判所

判事　櫂田貢

石川縣鹿島郡七尾町字川原町十八番地平民無職不在者宮川おを　文政七年八月十九日生　利害關係人坂本常吉ヨリ右不在者ニ對シ失踪宣告ノ申立ヲ爲シタルニ付キ不在者ハ明治四十五年九月三十日迄ニ當裁判所ニ生存ノ屆出ヲ爲スヘク若シ其屆出ヲ爲サヽルトキハ失踪ノ宣告ヲ受クヘシ又不在者ノ生死ヲ知ル者ハ右期日迄ニ其屆出ヲ爲スヘシ　明治四十五年二月二十六日

七尾區裁判所

判事　杉江重義

○行旅死亡人

廣島縣佐伯郡平真村大字上平真百十四番邸平民　原木スキ　不在者　明治八年十月一日生

丈五尺二寸位骨格佳良顏長ク頭髮五分刈色白キ力其他普通ト認ムル點所襲傷ノタメ龜認スル能ハス著衣瑞穗縞袷羽織一木綿縞綿縞入一重襦一モスリン兵兒帶一白「フランネル」巻十一同腹掛一白木綿襦袢一綿服袢一綿足袋一藍縞銘仙衣一風呂敷包一所持品金二十一錢其他ナシ　明治四十五年二月一日

右去月三十一日午後八時十二分當町大字露橋字北ノ脇鐵道線路內ニ於テ縊死シ居タルニ付キ其筋ノ檢視ヲ受ケ假埋葬取計七置ケリ心當ノ者ハ當町役場ニ申出ツヘシ　明治四十五年二月一日

愛知縣愛知郡愛知町役場

○勤業債券臨時償還當籤番號

明治四十五年二月二十六日

左記債券當籤ニ付來ル三月一日ヨリ本行ニ於テ債券引換ニ元利金支拂可申候

株式會社日本勤業銀行

西鶴勤業債券（償還金額四十二万三千圓此通數四百二十三通月）

七（償還金額四十二万三千圓此通數四百二十三通月）

○株券無效

左記株券紛失ノ旨屆出ニ付キ無效トス

一　韓國銀行發株券　一　枚　但シ橫濱市海岸通四丁目十八番地德商德生佐服記名甲第壹六五四七號

○移住民募集

明治四十五年二月二十九日

東洋拓殖株式會社

東洋拓殖株式會社移住民募集ニ左記要項ニ依リ第三回新移住民ヲ募集ス　明治四十五年二月

一　移住申込期日　木年九月末日マテ

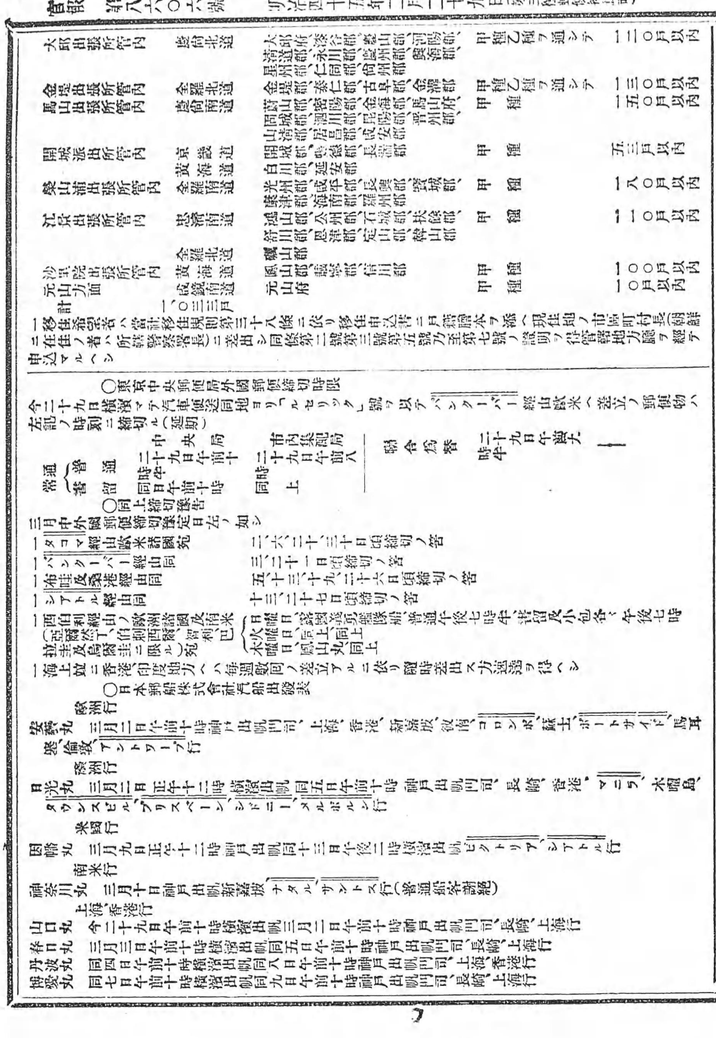
一　申込承認ノ有無通知期日　申込ノ受ケタル日ヨリ二月以內

一　移住契約締結期日　承認通知ヲ受ケタル日ヨリ十五日以內

一　移住地及募集人員　一　移住地到着期日　翌年二月末日マテ

一　旅費　甲種乙種ノ區別ニ依リ左ノ通リ

京城道	京畿道	甲種乙種ノ通シテ一八〇円以內
水原郡、龍仁郡、振威郡、陽城郡、安城郡	忠清南道	甲種一〇〇円以內
平澤郡、稷山郡		



第 8606 号　本文

官報第八千六百六號附錄

明治四十五年二月二十九日

○廣告

○商業登記

東洋製革株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一監査役左者明治四十五年一月二十六日重任ス

大阪市南區北桃谷町三十九番屋敷　高山　圭三

東京市麻布區龍土町七十一番地　大野市太郎

東亞興業株式社會登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役左者明治四十五年一月二十九日重任ス

東京市本郷區弓町二丁目三十四番地　古市　公威

同市麹町區紀尾井町三番地　岩下　清周

同市赤坂區新坂町三十番地　門野重九郎

同市同區同町四十三番地　山下桑太郎

同市麻布區市兵衛町二丁目十三番地　白岩　龍平

東京市麹町區上六番町四十三番地　大橋新太郎

一監査役左者同日重任ス

日本電燈株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一明治四十五年二月三日本店ヲ左ノ所ニ移轉ス

本店　東京市京橋區築地三丁目十五番地

有隣生命保險株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役高倉陳平ハ明治四十五年二月五日共住所ヲ大阪市南區天王寺小宮町五千三百八十九番地ニ移轉セリ

合名會社林商會登記事項中左ノ如ク追加ス

一消算結了ノ年月日　明治四十五年二月六日

王子電氣軌道株式會社支配人出屋金治ハ明治四十五年二月五日辭任セリ

一支配人ノ氏名住所

一主人ノ氏名住所

一支配人ヲ置キタル場所

株式會社興國銀行登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役野畑曉瑞江榮太郎大助ハ明治四十五年一月二十八日辭任シ左者令日取締役ニ就任ス

東京市神田區平河町三番地

菅玉縣南埼玉郡止村大字古新田百九十九番地

東京市本所區菊井町四十七番地　渡邊　秀雄

一監査役江口義一ハ同日辭任シ左者同日監査役ニ就任ス

東京市日本橋區北新町四番地

變更

株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一取締役福田千代吉ハ明治四十五年一月二十八日共住所ヲ東京市下谷區二長町四十一番地ニ移轉セリ

一監査役寺島音五郎牧野大助ハ明治四十四年十二月十五日退任シ左者明治四十五年一月二十四日監査役ニ就任セリ

東京府豐多摩郡內藤新宿元二丁目十一番地　牧野　大助

東京市神田區同朋町十八番地　寺島音五郎

合名會社益池商店登記事項中左ノ如ク變更ス

一社員間中次郎ハ明治四十五年二月六日持分全部ヲ箒井憲ニ讓渡シテ退社シ讓受ケタル者ハ同日入社ス

金七千圓　東京市本郷區春木町二丁目二十六番地　箒井　憲

一代表社員間中次郎ハ明治四十五年二月六日退任シ左者同日代表社員ニ就任ス

代表社員　箒井　憲

京橋區商號登記簿第五冊第二二六號

一商號　森又組

一營業ノ種類　雜貨商

一營業所　東京市京橋區銀左衛門町十六番地

一商號使用者ノ氏名住所　新村　增永

加須電氣株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一監査役左者明治四十五年一月二十五日重任ス

東京府北埼玉郡忍川町北忍川宿七百十八番地　永橋　至剛

埼玉縣北埼玉郡加須町大字加須四十五番地　渡邊五兵衛

同所四十四番地　富田萬一郎

株式會社東京殖產銀行登記事項中左ノ如ク變更ス

一監査役左者明治四十五年一月二十二日退任シテ更ニ明治四十五年一月三十日監査役ニ就任ス

東京府南多摩郡八王子町横山百六十一番地　加藤源左衛門

同所八木八番地　朝倉甚五郎

東亞石油株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一監査役左者明治四十五年一月二十日退任シテ更ニ同年同月二十九日監査役ニ就任ス

新潟縣中頸城郡潟町村大字潟町百三十六番戶　田中　虎治

明治倉庫株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一監査役島村禎次郎ハ明治四十五年一月二十五日重任シ柿沼得次郎ハ同日辭任シ更ニ同日監査役ニ就任ス

合資會社石崎商店登記事項中左ノ如ク追加ス

一解散ノ事由及年月日　總社員ノ同意ニ依リ明治四十五年一月三十日解散ス

數島貯金合資會社登記事項中左ノ如ク追加ス

一清算人ノ氏名住所

東京市下谷區龍泉寺町三百七十六番地　可兒　眞男

同市同區入谷町三百二十八番地　田邊菊太郎

帝國纖泉株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一明治四十五年一月二十五日左者取締役ニ就任ス

東京市芝區三田豐岡町十三番地　桑原　虎治

同市同區田町二丁目三番地　山名　次郎

一監査役桑原虎治ハ同日退任シ左者同日監査役ニ就任セリ

大阪市南區天王寺鳥ケ辻町五千七百五十一番地　平賀　敏

東京市日本橋區富澤町二十八番地　前田　榮七

日本硫黃株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一監査役左者ハ明治四十五年一月二十九日重任セリ

三重縣宇治山田市吹上町七十九番屋敷　竹內善四郎

東京市赤坂區新坂町四十三番地　鄰間　甲松

神田區南甲州登記事項中左ノ如ク變更ス

一明治四十五年二月七日商號變更ニ依リ商號使用者ノ氏名住所ヲ左ノ如ク變更ス

東京市神田區淡路町一丁目一番地　假田　久松

株式會社東京貯蓄銀行登記事項中左ノ如ク追加ス

一明治四十五年二月六日左ノ所ニ支店ヲ設置ス

東京市本郷區駒込東片町八十番地

八王子玉斯株式會社登記事項中左ノ如ク變更ス

一明治四十五年一月二十八日左者取締役ニ就任ス

名古屋市東區宮町三丁目三十三番地　奧田　四郎

右明治四十五年二月七日登記　東京區裁判所

付録

第 8606 号　付録

○法人登記

○産業組合登記

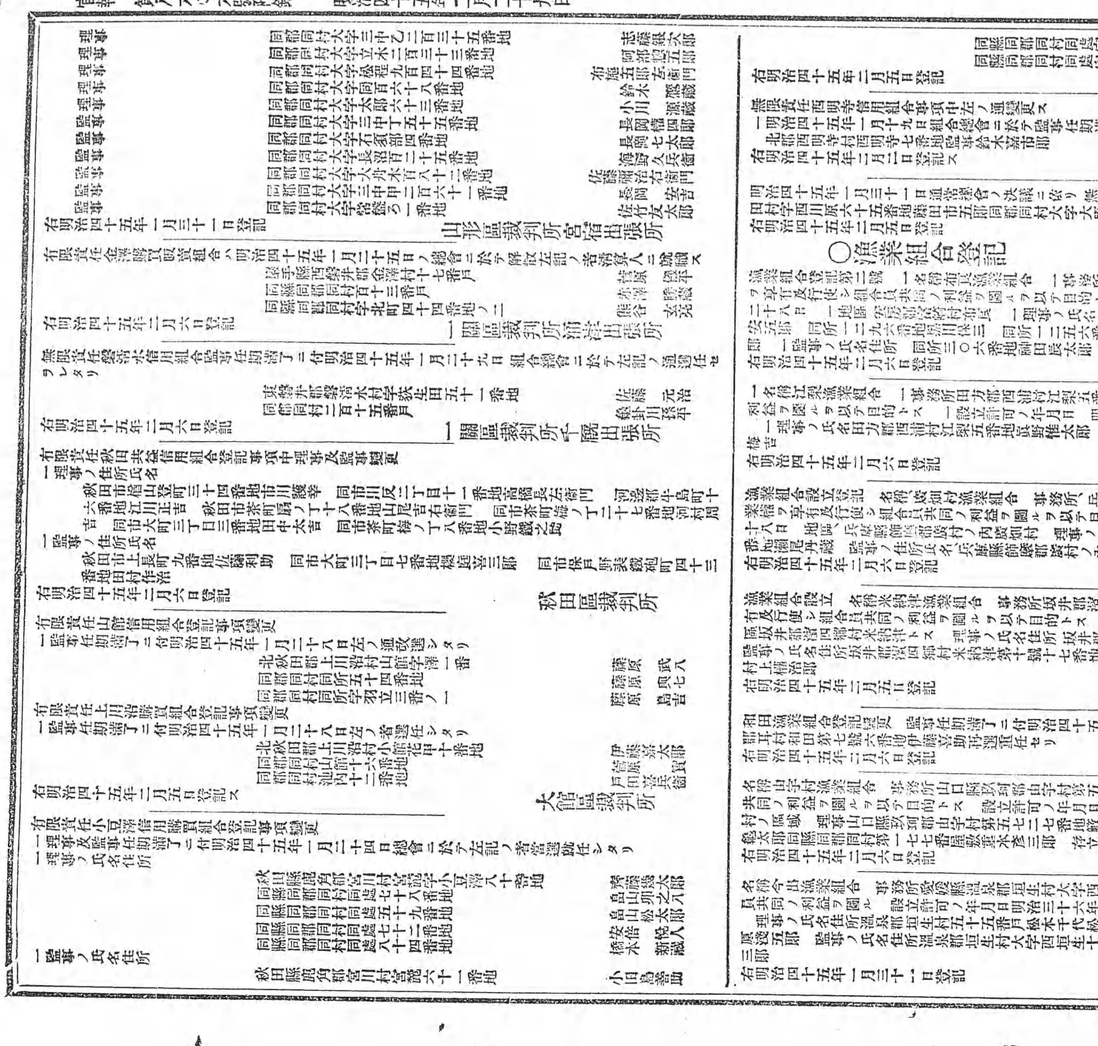
第8606号　付録

第8606号　付録

第8606号 付録

第8606号　付録

第8606号　付録



付録

第8606号